

# 各分科会の見どころ&聴きどころ

<p><b>製造業安全対策官民協議会 特別セッション</b></p> <p>(P.14)</p>	<p>官民・業種の垣根を越えた安全対策の検討や普及活動を行う協議会の特別セッション</p> <p><b>[10.18]</b> 製造業主要10団体と厚生労働省、経済産業省、中災防で構成する本協議会の成果発表等を行う。</p>
<p><b>リスクアセスメント/ マネジメントシステム分科会</b></p> <p>(P.14 ~ 16)</p>	<p>労働安全衛生マネジメントシステムの導入による安全衛生活動の改善事例や、企業におけるリスクアセスメント事例等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;講演&gt; 「はやぶさから伝えたい創る力の育て方」 宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー 川口淳一郎氏</p> <p>&lt;特別報告&gt; 日本版マネジメント規格 (JIS α) の概要と運用 ~ ISO (JISQ) 45001との一体運用による相乗効果~ 中災防ISO/PC283日本代表エキスパート 斉藤信吾</p> <p>&lt;パネルディスカッション&gt; 「ISO (JIS Q) 45001の効果的な運用のために ~ JIS αの活用による安全衛生水準向上~」</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;講演&gt; 「リスクマネジメントとヒューマンファクター - レジリエンス能力を向上させるために -」 早稲田大学教授 小松原明哲氏</p>  <p>川口氏</p>
<p><b>安全管理活動分科会</b></p> <p>(P.17 ~ 19)</p>	<p>作業方法、作業手順による安全衛生対策をはじめとする安全管理活動等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;講演&gt; 「~米石油メジャーから学んだ~ 「安全・健康・環境におけるトップの覚悟-リスクマネジメント」」 JXTGホールディングス(株)代表取締役副社長執行役員 武藤潤氏</p> <p>&lt;スペシャルトーク&gt; 野球解説者・前横浜DeNAベイスターズ監督 中畑清氏</p>  <p>武藤氏</p>  <p>中畑氏</p> <p>&lt;特別報告&gt; 第13次労働災害防止計画の推進について 東京労働局</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;講演&gt; 「安全衛生スタッフのための「入門機械安全~機械安全基準の制定と進め方~」安全と人づくりサポート代表 古澤登氏</p> <p>&lt;講演&gt; 「安全の新しい時代-機械と人間との協調安全 (Safety2.0)-」 明治大学名誉教授 向殿政男氏</p>
<p>(P.20 ~ 23)</p>	<p><b>[10.18]</b> &lt;事例報告&gt; 日本化学工業協会 安全表彰 最優秀賞受賞の取組事例 (東レ(株)千葉工場) 発表</p> <p>&lt;特別報告&gt; 第13次労働災害防止計画の推進について 厚生労働省安全課、神奈川労働局</p>
<p>(P.23 ~ 27)</p>	<p>全国の鉄道事業関連事業場の取組事例を2日間で30題発表する。14の分科会の中で最多の発表数。</p>
<p><b>機械・設備等の安全分科会</b></p> <p>(P.27 ~ 29)</p>	<p>機械・設備等に関するリスクアセスメント事例、機械・設備の安全対策事例等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;講演&gt; 「自動運転技術のもたらすもの」 日産自動車(株)総合研究所所長 土井三浩氏</p>

<p><b>防災・危機管理分科会</b></p> <p>(P.29 ~ 30)</p>	<p>企業における防災・震災対策、危機管理、事業継続計画 (BCP) 事例等を紹介</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;講演&gt; 「爆発・火災事故とリスクマネジメント」 横浜国立大学教授 三宅淳巳氏</p>
<p><b>安全衛生教育分科会</b></p> <p>(P.30 ~ 33)</p>	<p>企業内における安全衛生教育の取り組み事例等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;講演&gt; 「対話型安全パトロールでリスクの抽出と作業者の安全意識向上を目指す」 新日鐵住金(株)安全推進部部长 朱宮徹氏</p>
<p><b>ゼロ災害運動分科会/ 交通安全分科会</b></p> <p>(P.33 ~ 35)</p>	<p>ゼロ災害全員参加運動による安全衛生活動事例、危険予知活動による安全衛生活動事例を紹介(ゼロ災)。また、職場の交通安全対策事例等を紹介(交通)。</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;講演&gt; 「中小企業における組織改革と活性化~ SDGs (持続可能な開発目標) に向かって~」 (株)銀座テラーグループ代表取締役社長 鶴淵美恵子氏</p>
<p><b>ワークスタイル変革等分科会</b></p> <p>(P.35 ~ 36)</p>	<p>人材と働き方の多様化に対応した活躍の事例等を紹介 <b>[10.18]</b></p>
<p><b>中小事業場分科会</b></p> <p>(P.36 ~ 37)</p>	<p>中小事業場の安全衛生活動や健康づくり活動に関する事例等を紹介 <b>[10.18]</b></p>
<p><b>海外安全衛生分科会</b></p> <p>(P.37 ~ 38)</p>	<p>海外における安全衛生活動事例等を紹介</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;事例報告&gt; 「海外派遣労働者の心身の健康管理」 産業医科大学助教 日野亜弥子氏</p>
<p><b>第三次産業分科会</b></p> <p>(P.38 ~ 39)</p>	<p>第三次産業における安全衛生活動や健康づくり活動に関する事例等を紹介</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;講演&gt; 「吉野家の経営戦略 ~人をダメにするのも人、人を成長させるのも人~」 (株)吉野家ホールディングス会長 安部修仁氏</p>  <p>安部氏</p>
<p><b>労働衛生管理活動分科会</b></p> <p>(P.39 ~ 40)</p>	<p>職場の作業環境管理、作業管理および健康管理に関する事例等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;パネルディスカッション&gt; 「働く人の健康確保の視点から見た「働き方改革」 ~産業医に求められる役割」</p>
<p><b>化学物質管理活動分科会</b></p> <p>(P.41 ~ 42)</p>	<p>化学物質に関する安全衛生活動事例等を紹介</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;化学物質管理実践講座&gt; 「簡易測定器を用いた化学物質のリスクアセスメント」</p>
<p><b>メンタルヘルス/ 健康づくり分科会</b></p> <p>(P.42 ~ 45)</p>	<p>職場のメンタルヘルス対策に関する事例、健康づくり活動に関する事例等を紹介</p> <p><b>[10.18]</b> &lt;特別報告&gt; 「FUN+WALK PROJECT」紹介 スポーツ庁</p> <p>&lt;特別プログラム&gt; 「『びんしゃんウォーキング』 ~背筋を「びん」!と気持ちを「しゃん」と歩きましょう! 100歳まで元気に自分で歩くよるこびを!」ウォーキングドクター (一社)びんしゃんウォーキング協会代表理事 デューク更家氏</p> <p><b>[10.19]</b> &lt;パネルディスカッション&gt; 「経営層と語る健康経営」(仮題)</p>  <p>デューク更家氏</p>

# 製造業安全対策官民協議会 特別セッション

会場 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 4階 清流 [横浜市西区北幸1-3-23]

交通 「横浜駅」西口 徒歩1分



## 10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

9:30

製造業主要10団体と厚生労働省、経済産業省、中災防による官民が連携して発足した本協議会は、製造業における安全対策の更なる強化を図ることを目的に、「一人ひとりカケガエノナイひと」という人間尊重の基本理念のもと、リスクアセスメントの標準手法の開発、安全対策の経済効果などの具体的な検討や、「トップ会談」において4つの経営理念を含む「声明文」の発表を行い、昨年神戸大会において「神戸宣言」を行いました。今年は、基調講演、事例紹介、パネルディスカッションなどにより、これらの取組状況について紹介します。乞うご期待!!

12:30

## リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

会場 ロイヤルホールヨコハマ 2階ヴェルサイユ [横浜市中区山下町90]

交通 みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口 徒歩2分

JR「石川駅」北口 徒歩7分

JR「関内駅」南口 徒歩8分



## 10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

9:30

### 1 実効性のあるISO45001への取り組み

アズビル(株) 藤沢テクノセンター  
環境安全グループ 係長

平山 剛

労働安全衛生マネジメントシステムを導入、運用して6年が経過した。ISOへの移行に伴い、これを好機ととらえ、環境、品質との強調で複合から統合監査の研究に着手した。ISOで培った社内インフラを活用した仕組みで実効性のあるISO45001への取り組みと対応を報告する。

9:50

### 2 当社における安全衛生マネジメントシステムの概要とその運用状況について

東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)  
安全統括部 課長

山田 貴久

当社は、安全衛生マネジメントシステムの導入により、きめ細かなPDCA管理に基づく安全活動の継続的な改善に努めてきた。その取り組みにより、安全成績は格段の向上が図られた。その改善の基盤となった同システムの概要とそこに多様に組み込んだ独自の方策や運用等について紹介する。

10:10

### 3 リスクアセスメントによる安全な職場づくり

川崎重工(株) 明石工場  
航空宇宙システムカンパニー生産本部 明石製造部 明石検査課 班長

木南 和義

班長任用時の安全衛生教育として、リスクアセスメントの手法を活用し、担当のガスタービンエンジン目視検査・寸法検査に潜む危険有害要因の対策を実施した。重大災害の防止を図るとともに不安全状態を改善し、リスクレベルを低減することで、安心して働ける職場づくりが実現できた。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

### 4 安全衛生事務局の集約による全社一丸となった安全衛生活動の推進

リコーインダストリー(株) 東北事業所  
ものづくり統括部 人材戦略センター 人材統括室 東北管理グループ  
グループリーダー

加藤 久広

グループ企業の再編に伴い、旧5社6事業所が2社8事業所に再編されたが、安全衛生活動レベルは事業所間でバラツキがあった。安全衛生推進事務局を集約することで、推進業務の効率化と活動レベルの向上に一定の効果が見られたため、当社の取り組み内容を紹介します。

11:00

### 5 はやぶさから伝えたい創る力の育て方

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構  
シニアフェロ  
宇宙科学研究所宇宙飛行工学研究系  
教授

川口 淳一郎

数々の危機を乗り越え地球への帰還を遂げた小惑星探査機「はやぶさ」。この大きなプロジェクトが成果を収めるまでの過程には、単なる過去の後追いはたどり着けなかった様々な挑戦があった。企業あるいは現場でも新たな創造が求められて久しいが、失敗を恐れず挑戦し続けた「はやぶさ」のプロジェクトマネージャから、改めて創る力の重要性と、加点思考などの具体的な育成方法を解説する。

(12:00～13:00 昼休み) 13:00

# リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

13:00

### 5 ～抜け漏れの無いRAを目指して～ 全員参画のRAモデル職場活動

由良アイテック(株)  
硝子事業部 硝子課 主任

酒匂 博貴

今までのRAは作業を知らない管理者が作成していたが、2017年度は現場作業者が主体となった全員参画のRA活動を実施。安全に興味を示さない作業員に対しゲームを取り入れるなど工夫しながら活動を進めた結果、現場の実作業に沿った抜け漏れの少ないRAを作り上げることができた。

13:20

### 6 磁粉を次工程に搬送する空気輸送の 鋼管改善による安全作業

DOWAエフテック(株) 柵原工場  
製造部 班長

河崎 正美

空気輸送の鋼管の一部に閉塞が生じると、都度閉塞を解除するために作業負荷が発生、また危険要因も多く課題となっていた。長期2年間にわたり危険要因のなか作業を執行してきたが、2回の改善により作業負荷による危険要因から開放された。

13:40

### 7 定修工事のリスクアセスメント活動 ～重大災害撲滅への取り組み～

JXTGエネルギー(株) 川崎製油所  
環境安全グループ 安全チーム SHEコーディネーター

梅澤 達也

2014年の定修において休業災害を含む重大災害が発生させた反省から、リスクアセスメントを改善し、現在ではすべての作業(運転・工務)についてリスクアセスメントを実施している。労働災害撲滅のため、リスクアセスメントの結果を現場に伝えるための活動について紹介する。

(14:00～14:10 休憩) 14:10

### 特別報告 日本版マネジメント規格(JIS α)の概要と運用 ～ISO(JIS Q)45001との一体運用による相乗効果～

中央労働災害防止協会  
技術支援部 次長 兼 規格普及推進室長  
ISO/PC283日本代表エキスパート

斉藤 信吾

厚生労働省は日本独自の安全衛生活動(KY活動、5S活動等)を要求事項に盛り込んだ日本版マネジメント規格(仮称:JIS α)を作成した。JIS αの概要及びISO(JIS Q)45001と一体で運用し安全衛生水準を向上するためのポイントを紹介します。

14:40

### ISO(JIS Q)45001の効果的な運用のために～ JIS αの活用による安全衛生水準向上 ～

パネリスト

HOYA(株) 総括産業医 環境・安全衛生・健康・ISO 執行責任者

小林 祐一

NTN(株) 産業機械事業本部 桑名製作所 管理部 安全・環境管理課 課長

伊藤 晃幸

中央労働災害防止協会 JISHA-ISO マネジメントシステム審査センター 専門役 安全管理士

高岡 弘幸

助言者

経済産業省 産業技術環境局 基準認証ユニット 国際標準課長

藤代 尚武

厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課 主任中央産業安全専門官

高橋 洋

司会

中央労働災害防止協会 技術支援部長

南保 昌孝

16:40

## 10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

9:30

### 8 HM400 ブレーキタンクサブ組立/ ライン組付作業のリスク低減活動

(株)小松製作所 茨城工場  
生産部 組立課 混成組立センター サブ組立班

柳橋 直季

既存作業の総点検の結果、ダンブトラックへのブレーキタンク組付作業が最も高いリスクとなった。高リスクのクレーン作業が53%も含まれる状態から、他職場の好事例をベンチマークして専用台車を導入することにより、クレーン作業を全廃してリスクを大幅に低減することができた。

9:50

### 9 JR東日本郡山総合車両センターでの新たな 安全性向上の取り組み ～Safety II導入～

東日本旅客鉄道(株) 郡山総合車両センター  
助役

堀 裕一

JR東日本郡山総合車両センターは鉄道車両の安全や社員の傷害事故防止を目的にした安全活動において、従来の「Safety I」に加え、2017年度から「Safety II」の考え方を盛り込み、うまくいっている業務の失敗しない理由を考え、安全レベルのさらなる向上に取り組んでいる。

10:10

# リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

	10:10	
10	現場・工務・事務局一体型のリスクアセスメント活動について 山崎製パン(株) 横浜第一工場 人事課	当社では機械災害と転倒災害が増加傾向にあり、安全衛生管理上の大きな課題となっている。機械災害では、「挟まれ・巻き込まれ」が多く、また転倒災害では、「滑り」「つまずき」が多くを占めている。災害未然防止のために、リスクアセスメント活動に力を入れ、設備改善を図っている。
	10:30～10:40 (休憩)	10:40
11	日常作業の危険箇所改善に向けた取り組み 西武鉄道(株) 電気部 上石神井電気所 副所長	不安全設備は常に私たちの周囲に潜んでいる。これらの不安全設備は、日々の作業時に経験・体験するヒヤリハットで表面化することが多い。リスクアセスメント手法による設備改善を行ったことにより、労働災害につながりかねない危険要因が排除された。
	11:00	
12	個人ばく露測定に基づく作業場の騒音ばく露リスクアセスメントとリスクに基づく対策の実践 JXTGエネルギー(株) 千葉製油所 環境安全グループ	製油所における騒音性難聴の予防は極めて重要である。化学物質リスクアセスメントは義務化され国内に浸透してきているが、騒音リスクアセスメントは、その手法を含め認知度が低いと思われる。今回は、実際の評価事例を用いて包括的な騒音対策プログラムを紹介する。
	11:20	
13	パートナー会社と一体となったリスク抽出 西日本旅客鉄道(株) 和歌山電気区 電気管理係	和歌山電気区としてリスクアセスメントの充実に向けて、リスクアセスメントサイクルの始まりである「リスクの抽出」に力を入れて取り組んでいるが、パートナー会社が認識しているリスク情報を共有し日常の業務で活用することが重要である。
	11:40	
14	リスクアセスメントによる危険要因の抽出と改善 東京急行電鉄(株) 運転車両部 長津田整備区 主任	ゼロ災害活動として職場の各チームでリスクアセスメントを活用している。その中でリスクレベルの高かった「台車軸箱緩衝ゴム交換」では、専用吊具を製作して作業方法を改善した。「打音検査用保護眼鏡見直し」では、作業者の要望に合った保護眼鏡に切り替え改善を図った。
	12:00～13:00 (昼休み)	13:00
15	「究極の安全」に向けた三つのリスクアセスメントの機会と取り組み JR東日本テクノロジー(株) 新幹線事業所 安全業務改善G 副課長	近年、新たな業務の増加により大きな変化点を迎え、社員全員が積極的なリスクアセスメントに取り組む三つの機会を設けた。リスクアセスメントの継続によりPDCAサイクルを回す職場改善を続けてきた結果、有休障害ゼロ件を継続している。
	13:20	
16	「人・設備・技術」を活用した、労働安全衛生マネジメントシステム 株開発機工	ゼロ災害の達成を安全管理の基本目標としつつ、社会貢献にまで目標を拡大させ、マネジメントおよびリスクアセスメントを行う、新しいシステムの検証結果を発表する。人、設備、技術を用いるマネジメントシステムの各要素を効果的に結びつけ、目標達成を目指す。
	13:40～13:50 (休憩)	13:50
講演	リスクマネジメントとヒューマンファクター～レジリエンス能力を向上させるために～ 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授	事故やトラブルの起原因としてのヒューマンエラー防止は重要だが、一方で人の気づきや臨機の行動が事故の未然防止にもつながる。人と組織のレジリエンス(弾力性、しなやかな強さ)に着目し、人の良い面を伸ばしていく安全へのアプローチについて解説する。
	14:50	

# 安全管理活動分科会 (第1会場)

会場 パシフィコ横浜 1階 展示ホールC [横浜市西区みなとみらい1-1-1]  
交通 みなとみらい線「みなとみらい駅」クイーンズスクエア連絡口 徒歩5分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

	9:30	
1	ヒューマンエラーの考察および防止策の調査 (一社)日本自動車部品工業会 安全衛生部会 調査・研究WG Bグループ (トビー工業(株) 技術部 安全・防災グループ)	自動車部品工業会の一員である弊社は、今回の調査・研究のテーマをヒューマンエラーの考察と防止策について調査する活動としたが、定義づけがハッキリしないヒューマンエラーをどのように捉えて、その防止策についてどのように具現化すべきか苦労した。
	9:50	
2	職場一体となった安全文化の醸成 日産自動車(株) 横浜工場 品質保証部	品質保証部は20年以上無災害を継続しているが、16年度の状況を振り返ると災害につながりそうなヒヤリが発生した。そこで非常事態宣言を発令し、毎日全職場の安全パトロールを開始した。職場の規律と作業環境を改善していくための地道な活動を紹介する。
	10:10	
3	構内工事情報管理システムの構築と運用による安全管理機能の向上 (一財)電力中央研究所 横須賀地区 横須賀運営センター 安全管理センター	当地区では所外者による工事・作業が年間800件近く行われている。従来の申請書面と表計算ソフトによる工事等情報管理から、新規構築したWeb電子データベース化を推進した。その結果、大幅な管理工数の削減に加え、作業実施箇所の見える化により安全管理機能を向上できた。
	10:30～10:40 (休憩)	10:40
4	安全文化醸成活動の取り組みによる「真に安全な工場」へ 東芝エネルギーシステムズ(株) 京浜事業所 総務部 総務安全担当	これまで取り組んできた安全活動は、災害が起きた後の再発防止が中心であり、かつ、ハード対策を重点に実施してきた。しかし、作業者の安全に対する意識の希薄から災害につながるケースが多いことから、従業員の意識改革を目指し活動を展開し、災害件数の減少を達成した。
	11:00	
5	フォークリフトを用いたコイル運搬の安全対策 JX金属コイルセンター(株) 倉見事業所 生産1課 副課長	倉見工場の災害を契機に、フォークリフトを用いて物流を担っている弊社は、フォークリフトに関する安全を見直し、基本操作を教え、合格者のみ運搬を許可し、急な運転や速度オーバーをチェック採点するドライブレコーダーなどの機器を導入して管理している。
	11:20	
6	重篤災害撲滅への取り組み～総合エンジニアリング会社として～ JFEエンジニアリング(株) 安全環境部	当社は、機械器具・鋼構造物の製造から、社会インフラ施設、エネルギー利用施設の建設、メンテナンス、操業を行う事業場と非常に幅広い作業工種を扱っている。全社一丸となり重篤な災害を防止することが総合エンジニアリング会社の使命であり、その取り組みを紹介する。
	11:40	
特別報告	“Safe Work TOKYO” 東京における第13次防計画の推進について 厚生労働省 東京労働局 労働基準部 安全課長	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、経済活動の活発化、人手不足の顕在化や労働力人口の高齢化が進む中で、労働災害の防止を国民全体の課題として取り組んでいくことが求められている。第13次防計画の目標達成に向けた「オールTOKYO」の取組を紹介する。
	12:10～13:00 (昼休み)	13:00

# 安全管理活動分科会 (第1会場)

講演

～米石油メジャーから学んだ～  
「安全・健康・環境におけるトップの覚悟  
—リスクマネジメント」

JXTGホールディングス(株)  
代表取締役 副社長執行役員

**武藤 潤**

13:00

「リスクベースド・アプローチ」およびリスクマネジメントの重要性、その実践におけるトップマネジメントの役割・覚悟について、これまでの武藤講師の経験に基づく実践論をご講演いただく。労災撲滅のみならず、プロセス安全、産業衛生、個人の健康、環境保全の確保は、会社経営の前提条件(コア・バリュー)。これらは、欧米では SH&E と呼ばれ、セットで取り扱われる。これらに対する取組みの基本は、共通で、「リスクベースド・アプローチ」である。リスクを抜けなく網羅的に抽出して、適切に経営資源を投入して、許容可能なレベルまでリスク低減を図る。即ち、リスクマネジメントである。考え方を「絶対安全/リスクゼロとする」から、「リスクを正しくマネージする」にシフトし、リスクベースド・アプローチに向かうことを提案。

7 ウェアラブルセンサを用いたつまずき  
転倒検知に関する研究

東芝エネルギーシステムズ(株)  
技術管理部 原子炉システム・量子応用技術開発部 プラ  
ント安全・解析技術開発担当

**大島 朋美**

14:00

ウェアラブルセンサを用いた安全管理ツールの開発を行っている。これまで、足首の加速度から、上半身の左右の傾き、猫背具合、爪先の角度などの姿勢を、簡易に評価する手法を検討してきた。この技術を、つまずきや転倒の検知へ適用するための取組みを紹介する。

8 全員参加で考える感受性向上活動

日産自動車九州(株)  
製造部 車体課 工長

**中島 義雄**

14:20

これまでを振り返ると、想定外な危険の発現に乏しく「早く・簡単」な物的対策にするため感受性が低くなっていった。そこで、本音で話し合い、小手先の安全対策から脱却し再発させない恒久的な物的対策の必要性を全員で理解し、現場の声を上げ関連部署と連携して取り組むことで感受性向上を図った。

わが野球人生

野球解説者・前横浜 DeNA ベイスターズ監督

**中畑 清**

14:40

(15:50～16:00 休憩) 16:00

9 プロジェクト5S 倉庫の安全化  
～原石(若手社員)を磨け～

JFE スチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区)  
エネルギー部 エネルギー設備室

**滝沢 繁毅**

16:20

工事部品を保管している倉庫では、管理が行き届いていない状態であった。また、危険な状態での玉掛け作業や、重量物の人力運搬といったリスクを伴う作業が多数あった。若手社員が主体となり、倉庫のレイアウト変更や棚の改善、作業方法の変更により、リスクを低減し安全化を図った。

10 事前のリスク発掘力向上による災害の  
未然防止

日産自動車(株) 追浜工場  
製造部 組立課

**二本柳 圭祐**

16:40

災害の発生はないものの、顕在的なリスク(ヒヤリ体験)に目を向け、事前のリスク発掘力の向上と、高いレベルでの5S活動に取り組むことで、職場の安全意識や5S状態の向上を目標に活動した。また、発掘されたリスクに対する物的対策の内容を紹介する。

11 転倒災害ゼロに向けた総合的な取り組み

山崎製パン(株) 横浜第二工場  
人事課

**服部 淳**

17:00

当社の労働災害の事故型を検証すると、転倒災害の割合が4割を占めている。平成29年度には40歳以上を対象に転倒災害防止研修を実施した。今後も整理整頓、転倒危険箇所の改善・見える化を徹底し、従業員一人ひとりが健康で安全に働ける安全最優先の職場風土を目指していく。

## 10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

12 一人ひとりの安全意識向上・小集団活動強化  
～安全の種を「ま・こ・か」活動の推進～

JFE スチール(株) 東日本製鉄所(京浜地区)  
安全衛生室 主任部員

**小峰 伸万**

9:30

東日本製鉄所京浜地区の災害度数率は年々減少してきたが、近年下げ止まり感が見受けられる。この現状を打破するために職場・グループなどの小さな集団が自主的に安全活動を展開することを促す活動「ま・こ・か」活動を2016年より開始した。

9:50

18

# 安全管理活動分科会 (第1会場)

講演

13 全員参画の4S活動から始めた安全活動  
～掴み取った完全無災害四ヵ年～

JX 金属プレジジョンテクノロジー(株) 江刺工場  
総務課 主任

**高木 久也**

9:50

従来からコンサルタント指導のもと4S活動を行ってきたが身にならず。2014年に発生した火災は設備管理不十分によるものだった。火災を教訓に、単なる美化運動から、安全で作業しやすい職場改善活動として愚直に活動を継続。それまで数件発生していた労働災害も6年間発生していない。

14 安全の見える化による感動工場づくり

日産自動車(株) 横浜工場  
第二製造部 サスペンション課

**山田 薫**

10:10

サスペンション課では、今までの安全活動に何が足りないのか、何をすべきか、その原因を様々な角度から追究した結果、安全活動の見える化に辿り着いた。誰でもいつでも安全活動が見ることができるようシステムを開発し、安心して働ける職場をつくる仕組みを紹介する。

15 もう触らないぞ! 切粉は刃物! 切粉  
かき出しゼロへの挑戦!

(株)小松製作所 栗津工場  
特機製造所 工作部 工作課 4センター

**源田 純也**

10:40(休憩) 10:40

金属部品のネジ切り加工により発生する長い切粉をカギ棒で除去する作業は、切粉による手の切創リスクが高いため、この作業を改善。切り込みが深くなるほど切粉が長くなることに着目して、3回同じ深さで加工することにより切粉を細かくすることに成功。自動切粉排出によりリスクを全廃した。

安全衛生スタッフのための入門機械安全  
～機械安全基準の制定と進め方～

安全と人づくりサポート  
代表

**古澤 登**

11:00

重篤災害の減少には、ハード面の充実が必要だが、なかなか進まない現状がある。安全衛生スタッフの機械安全に対する苦手意識を払拭できるよう、講師自身が実践してきた具体的な事例を紹介しながら、一過性で終わらせない「機械安全基準の制定と進め方」を解説する。

安全の新しい時代—機械と人間との協  
調安全(Safety2.0)—

明治大学  
名誉教授

**向殿 政男**

12:00～13:00(昼休み) 13:00

現在、IoT、AI、ビッグデータ等の技術の圧倒的な進歩により、これまで出来なかったことが可能になりつつある。これらにより安全についても新しい視点を持つことが求められるようになってきた。人間と機械と一緒に協調して作業を行う環境での協調安全(Safety2.0)について、機械安全の歴史を踏まえて解説する。

16 職場安全活動の活性化

日産自動車(株) 追浜工場  
工務部 生産課

**越田 成了**

14:00

新任の安全推進員を成長させる活動をするなかで、安全に対する意識レベルが下がっている課員の意識改革をも短期間で行った安全推進員の奮闘記である。現状の活動を継続させるため、誰にでも理解できるシンプルルール作りにより課員全員を巻き込んで取り組んだ。

17 みんなが働き甲斐のある製造所を目指  
して ～協力的会社と創る安全文化～

JXTG エネルギー(株) 川崎製造所  
設備保全2グループ

**濱田 祥大**

14:20

従前の当所では、継続性のない再発防止策、ヒヤリハットの対応不足、具体性のない安全重点項目など多くの課題を抱えていた。これらの課題を解決し、「みんなが働き甲斐のある職場」を目指すため、協力的会社とともに様々な活動を開始した。

18 フォークリフト委員会活動による管理方法  
の改善と実施した安全対策について

旭硝子(株) 相模工場  
環境安全保安室

**藤堂 剛実**

14:40

当工場では、フォークリフト約60台が運行されている(ほとんどが構内ビジネスパートナー社保有)。従来、パートナー社で運営していたフォークリフト部会を2014年に弊社主導のフォークリフト委員会として再編した。以降、各社各部署協力の下、リスク低減活動を迅速に実施してきた。

19 工事現場の作業員へ伝える安全情報  
～電気メーカーデザイナーと工事部門の挑戦～

東芝インフラシステムズ(株)  
社会システム事業部 フィールド建設部

**栗原 善正**

15:00

過去に発生した災害を分析してみると、被災者が元請と直接取引のない業者であることがわかった。作業員の本音を引き出すためにデザイナーによるヒアリングの結果、現場掲示物は読まれていないことがわかった。作業員に伝わる掲示物をデザイナーと工事部門で作成した。

15:20

19

# 安全管理活動分科会（第2会場）

会場 ローズホテル横浜 2階 ザ・グランドローズボールルーム [横浜市中区山下町77]

交通 みなとみらい線「元町・中華街駅」2番出口 徒歩1分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

9:30

**1 現場リーダーが考え・実践する災害防止活動の展開**  
日本軽金属(株) 蒲原製造所 安全衛生管理室 室長  
笹岡 修一

数年前に社内、作業者の不安全行動や管理面の不備によって生じる災害が続いて発生した。まさに、社員全体の安全意識の底上げを図る必要から、「現場リーダーが考え、実践する災害防止活動」を展開してきた。蒲原製造所での安全担当者を主体とした活動事例を紹介する。

9:50

**2 競争原理で一石二鳥！ 全員参加のリスク抽出活動で一人ひとりの安全意識もアップ！**  
新日鐵住金(株) 交通産機品事業部 製鋼所 輪軸製造部 輪軸熱間工場 工場長  
桐山 健太郎

職場のリスクは作業者が一番よく知っている。現場からリスクを提言してもらい、管理者主導でそのリスク改善するという取り組みを、競争原理を導入して行った。その結果、これまで管理者には見えていなかった職場の課題が次々と明らかになり、個人の安全意識も大きく向上した。

10:10

**3 災害要因分析 (FTA) の進め方**  
(株)IHI ビジネスサポート 安全衛生部 参事  
清水 和雄

災害の分析検討で考えることは、「この災害はなぜ起こったのか」ということだろう。FTAを労働災害の分析に特化し、頂上事象に災害の全体像やその背景を定義し、「労働災害発生メカニズム」との整合を図って第一次欠陥事象を抽出することで論理的な災害の本質究明につなげた。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

**特別報告**  
**神奈川における第13次労働災害防止推進計画について**  
厚生労働省 神奈川労働局 労働基準部 安全課長  
原田 聡

第12次労働災害防止計画において目標達成できなかったことを踏まえて策定した神奈川における第13次労働災害防止推進計画について紹介する。特に前計画期間中に大幅に増加した荷役労働災害防止についての取組を紹介する。

11:10

**4 安全の確保と業務品質の向上に向けた技術開発の推進について**  
(株)ユアテック 電力本部 配電部 技術高度化グループ 副長  
青木 康高

当社配電部門では、安全の確保と業務品質の向上を基本方針に掲げ、配電工事に伴う技術開発に取り組んでいる。近年は作業員の安全確保、作業環境改善に向けた技術開発などを継続的に実施しており、これまで培った当社の技術力をもとに作業現場のニーズに合った研究開発を進めている。

11:30

**5 玉村工場のモデル化に向けて外部の眼の助けを借りた安全衛生促進**  
マックス(株) オフィスプロダクツ営業部 営業グループ 東京SEC 課長  
坂東 康史

世界に誇る日本のモノづくりの現場の安全促進を手助けしたい。そのために、まず自社工場のモデル化を開始した。ここでは社内だけでなく、他社様(お客様)の眼の助けも借りている。企業価値を高めるサイクル加速のために、工場と営業が一体となって進めている。

11:50

**6 リスクアセスメントによるクレーン災害対策 ～法30条の2対応とRA分析～**  
(公社)神奈川労働安全衛生協会 クレーン委員会委員長(JFE東日本製鉄所 設備部 製鋼設備室長)  
橋本 智之

クレーンによる荷役作業は重量物を扱い荷姿も多種多様であり、多くの事故や災害が発生している。本発表では発表者らの事業所で実際に発生した荷降ろし作業中の災害の原因と対策をリスクアセスメントにより掘り下げ、再発防止に寄与している事例を中心に報告する。

(12:10～13:00 昼休み) 13:00

**事例報告**  
**東レ千葉工場における安全への取り組み**  
(一社)日本化学工業協会 安全表彰 最優秀賞受賞  
東レ(株) 千葉工場 工場長  
三木 誠人

「安全は全てに優先する」を「人間愛」を思想の原点として組織一丸で実践し、仕組みとなる安全基盤の整備とそれを機能・活性化させる安全文化の醸成に加え安全な人の育成を基本に、トップダウンの安全管理と全員参加のボトムアップを融合させた安全活動で39年の無災害を継続している。

13:30

# 安全管理活動分科会（第2会場）

13:30

**7 フォークリフトと人との完全分離を目指した3年間**  
ビューテック(株) 東海事業所 袋井営業所  
富岡 里奈

職場内にはフォークリフトと人がしばしば交错し非常に危険な状態が続いていた。なんとかこれを解消しなければ重篤な災害が発生する恐れがあるためフォークリフトと人との完全分離に挑戦することとした。途中、幾多の困難に遭いながらも克服し目標達成に至った。

13:50

**8 安全なギャップ測定方法を探せ！**  
JFEスチール(株) 東日本製鉄所(千葉地区) 第一冷延部 冷延工場 リーダー  
泉 洋

ベルトランパーの先端ギャップ測定作業は、条件設定するとシリンダーの電磁励磁が切れギャップが開いてしまうため、条件設定特別注意作業に指定している。所属方針により条件設定特別注意作業の削減を目的とし活動した。今回、粘土の使用による測定作業方法を確立し、安全性を向上させた。

(14:10～14:20 休憩) 14:20

**9 炉の供給設備点検作業における重量物運搬の作業負荷低減および灼熱物との接触リスク低減**  
秋田製錬(株) 焙焼硫酸部  
佐々木 昭仁

平成28年12月から新設した3号焙焼炉での操業を開始している。新設備の作業の定常化に合わせ、アンケートで一番の問題として挙がった炉への原料供給設備の点検作業について、作業をビデオ撮影しながら分析し、作業上の危害リスク低減に取り組んだ。

14:40

**10 300撲滅活動の一考察 ～意識編～ 安全意識はなぜ失われるのか**  
(一社)日本自動車工業会 安全衛生部会 Bグループ研究会委員(株)SUBARU 人事部 安全企画担当  
日野 貴透

自動車メーカーの製造現場では、作業経験3カ月未満の従業員の災害件数が非常に多く、その対策は急務となっている。かれらの安全意識はなぜ失われるのか?作業経験の少ない従業員の災害を防ぐため、自動車メーカー7社が会社の垣根を越えて共同研究した結果事例を発表する。

15:00

**11 ゼロ災害3500日を目指して～基幹率50%の活動～**  
日産自動車(株) 追浜工場 製造部 塗装課  
宮原 惇樹

期間従業員やインドネシア実習生等、経験の浅い作業が増えていくなかで従来とは違うリスクアセスメントの分析方法や、経験の浅い作業員の目線に立った安全活動を行い、10年以上ゼロ災害を継続している。

15:20

**12 安全基本行動の定着への取り組み**  
住友化学(株) 東京本社 レスポンシブルケア部(環境・安全) 主任部員  
大沼 満

「安全をすべてに優先させる」を基本理念として掲げ、グループ会社と一体となって災害撲滅に努めている。安全文化の向上のため、安全基本ルールの制定および定着とKYTの活用に取り組んだ。これらの取り組みと活動の評価方法についての検討状況を報告する。

(15:40～15:50 休憩) 15:50

**特別報告**  
**産業安全の現状と課題 —第13次労働災害防止計画の取組等について—**  
厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課長  
井上 仁

労働災害発生動向を俯瞰するとともに、初年度となる第13次労働災害防止計画の行政の取組方針等について紹介する。

16:20

**13 リスク低減活動の加速と指差し確認喚呼の強化**  
新日鐵住金(株) 鋼管事業部 尼崎製造所 製造部 冷間中径管工場 中径管課  
岡 信太郎

当職場では、終業時の終礼で日々の作業を振り返り、着実にリスク抽出を行っているが、一方で改善の進捗に停滞感を抱えていた。また、終礼では指差し確認喚呼の抜け漏れも度々指摘されていた。そこで、リスク低減活動の加速、指差し確認喚呼の強化を図るべく取り組んだ。

16:40

**14 安全創造プロジェクト活動によるゼロ災害の実現**  
東京電力パワーグリッド(株) 業務統括室 安全・品質グループ 安全担当補佐  
白鳥 勲

災害を減少させ災害ゼロを目指すため、安全創造プロジェクト活動を開始した。活動は現場パトロールを通じての安全レベルの向上と事業所が抱える安全課題の改善である。これまでの成果として、現場での物的改善に加え、請負会社現場代理人等が自ら安全を考え行動することを体現できつつある。

17:00

# 安全管理活動分科会 (第2会場)

10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

15	安全評価指標を活用した職場安全意識の向上への歩み ~仕組みと仕掛けて生き生き職場~ 宇部物流サービス(株) 宇部事業所 分析センター 化学品分析チーム チームリーダー 吉井 裕子	9:30 会社全体で実施する3ヶ月ごとの安全評価表を使用し、部署のレベルを再確認する機会として取り組んだ。評価項目で「当事者意識を持つ」に近づくために安全会議で試行錯誤しつつ取り組んだ結果、職場のコミュニケーション向上、安全活動への積極的関与につながった。
16	工事事故削減に向けた発注者と受注者間の連携した取り組み 首都高速道路(株) 東京西局 プロジェクト本部 プロジェクト管理課 課長代理 鈴木 誠	9:50 当現場における平成28年度上半期に発生した工事事故件数は、平成27年度の同時期と比較して増加傾向であった。このような背景のもと、工事事故削減のため、工事業者が安全に対するインセンティブが働くように検討し、実際に取り組んだ。
17	2015年度の災害からゼロ災を目指した安全活動について 横浜コム(株) 平塚製造所 ハマタイト工場 製造課 課長 小野里 淳	10:10 2015年度、横浜コムハマタイト工場では4件の業務上災害が発生した。これらの災害は、運搬作業・新人中心の災害であった。災害を特徴づけ、反省点を明確にしたうえ、運搬作業の標準化・新人教育の見直し・設備修復からの風土改革に取り組んだ。現場でのゼロ災に向けた活動を紹介する。
18	潜在化した問題を顕在化して危険の芽をつむ安全活動 有楽製菓(株) 豊橋夢工場 品質保証部 課長 神谷 昭範	10:40(休憩) 10:40 安全文化を定着させるために安全衛生委員会に4つの部会が設置された。4部会のうち、潜在化した問題を顕在化するのがリスクアセスメント部会である。ヒヤリ・ハット報告書と手順書のリスク評価を行い、すばやく対応することから始める。安全な職場づくりを行った成果を紹介する。

19	配電部門安全アドバイザー制度について (株)ユアテック 電力本部 配電部 安全・人材育成グループ 副長 宗像 徹	11:00 当社配電部門では、客観的な視点で各事業所の安全管理状況を点検・確認し、不具合があった場合には改善策を助言・指導するとともに、不具合事例を上位機関に報告することで全社水平展開を図り、安全管理活動の底上げを図る「安全アドバイザー制度」を導入している。
----	---	--

20	対話パトロールの導入による安全成績の比較 JFEスチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区) 安全健康室 福田 洋行	11:20 当社倉敷地区の災害件数は減少しているがゼロではなく、従来の指摘指導型のパトロールでは安全をこれ以上担保出来ず、作業者の考え方・感性を変えないと行動災害は減少しないという結果であり、作業者の意識改革が必要という観点から対話パトロールを導入し安全成績を比較した。
----	---	--

21	継続は力なり ~5S活動で目指す安全職場~ (株)仙台ニコン 総務部 総務課 マネジャー 中島 明	11:40 当事業所で安全性の向上に寄与しているのが5S活動である。毎週水曜日の午前、社長以下経営陣が中心となって職場のパトロールを行うが、生産現場はもとより倉庫や排水処理施設にも巡視の目は及ぶ。効率化、コストダウン、安全性向上の源になっている活動を紹介する。
----	---	---

22	レストバー転回作業の安全化 「技あり!巴ちゃん」 JFEスチール(株) 西日本製鉄所(福山地区) 条鋼部 形鋼工場 佐藤 泰通	13:00 JFE西日本製鉄所福山地区形鋼工場では多種多様な製品を製造している。その中で圧延ロールや圧延ガイドの設計・管理・補修等を行っているが、取り扱うロールやガイドは重量物であり補修時の運搬に係るリスクが高いため、若人の斬新なアイデアを中心に問題解決に取り組んだ。
----	--	---

# 安全管理活動分科会 (第2会場)

13:20

23	スラグ処理職場の改善活動 ~まずは出来ることから改善につなげよう~ 鴻池運輸(株) 鹿島支店 製鋼材料課 グループリーダー 松山 彰彦	13:20 製鉄所の操業に直結する重要な業務にも関わらず、改善活動が停滞していた私たちの職場。「言い訳をやめてまずは出来ることから改善につなげよう」を合言葉に職場改善に取り組んだ半年間、27件の改善事例を通じて得たものは、職場全域におよぶ大改造とアイデアを言葉に出すことの大切さであった。
24	工機工場にうなぎの仕掛け? ~加工液抜き作業の安全化~ 愛知製鋼(株) 鍛造工場 工機課 佐々木 優一	13:40 弊社では鍛造プレス機用の金型を製作する業務を行っている。その工程では、「切削バック内加工液抜き取り作業」が重筋作業となっていた。今回の改善で、「うなぎの仕掛け」状の分離治具を考案作製し、自動化することで、職場の安全を図ることができた。
25	NIPPIの災害防止活動 日本飛行機(株) 航空宇宙機器事業部 管理部 安全環境課 課長 青木 洋一	14:00 近年大きなケガはないものの、基本的な動作に伴う災害が時折発生することから、日常の不安全箇所、不安全行動の撲滅を課題としている。基本動作の欠落を防止するためには、歩きスマホの禁止など身近な基本動作から、ラックへの格納方法など、図などを用いて周知し災害の撲滅を進めている。
26	自発的な行動をして「世界一安全で安心な職場づくりの一歩へ」 日産自動車(株) 横浜工場 成形技術部 型製作課 係長 磯田 孝	14:20 型製作課は、過去の災害対策は個々の不具合に対して実施しており、二度と災害を起こさないという全員のマインドに響く活動ができていなかった。原因を徹底的に分析し、全員が納得することができる安全活動計画を作成し、「世界で一番安全安心な職場」を目指している。

# 安全管理活動分科会 (第3会場)

会場 関内新井ホール 11階 多目的ホール 【横浜市中区尾上町1-8】  
交通 JR「関内駅」南口 徒歩5分  
みなとみらい線「日本大通り駅」2番出口 徒歩8分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

1	我が社の安全管理活動 東急テクノシステム(株) 安全品質委員会 係長 原 義幸	9:30 以前は事故の報告等の遅れから根本原因や再発防止策が有効でない事案が散見された。対策として、事故が発生した場合の報告からは正までの手順を何度かの改定を行ないながら構築した。また未然防止の取り組みとして、リスクアセスメントとヒヤリハット情報の収集を開始した。
2	信号工事用吊り上げ器の改良による重量物取替作業時の安全性向上 東日本電気エンジニアリング(株) 千葉支社 工事課 主任 宍戸 周平	9:50 鉄道用電気転てつ機は約330kgの重量があり、その取り替えには吊り上げ器を使用する。これまで使っていた吊り上げ器は不安定なうえ、転てつ機を移動させる機構に指を挟むなどの危険要素があった。そこで、吊り上げ器の脚部や重量物移動機構を改良し、安定した取替作業ができるようにした。
3	ユニットブレーキ作業場の安全性向上 (株)ジェイアール西日本テクノス 網干支店 機器部品1課 車両係 枝常 稔之	10:10 検修場に潜在するリスクを抽出し、リスクアセスメントの活用により確実なリスク低減化を図れた。職場のリスク改善に対して、大がかりな投資をすることなく、工夫や発想の転換によりリスク低減および作業効率向上につながり、大きな成果を生みだせた。今後も安全最優先の職場風土づくりに努める。

(10:30 ~ 10:40 休憩) 10:40

# 安全管理活動分科会 (第3会場)

4	<b>機械設備の弱点管理改善システムの研究 ～リスクアセスメント手法の考案導入に向けて～</b> 東日本旅客鉄道㈱ 仙台支社 仙台機械技術センター 計画科 施設係	10:40	従来設備に起因する事故防止は発生した事故事象の原因を調査し、同種事故トラブルの再発防止対策を確立して現場に徹底していく方法であった。現場の設備から事故を発生させないためには、現場の設備に潜在する危険性を調査しリスクを管理できる方法が設備にも必要と考え活動した。	佐藤 優弥
5	<b>重大事象を教訓とした安全対策</b> 西日本旅客鉄道㈱ 大阪工事事務所 大阪建築工事所 係長	11:00	麻耶駅足場倒壊事象を発生させてしまった教訓をもとに作業中断時の足場固定方法が守られていなかったこと、施工打ち合せにおいて作業進捗に合わせた対策の確認が行えてなかったこと等の再発防止について発表する。この取り組みにより請負とも共通認識を持つことができた。	上田 博紀
6	<b>現場と支社との信頼関係の向上からの 事故防止について</b> 日本貨物鉄道㈱ 関西支社 運輸車両部 部長	11:20	事故防止を推進するには安全に対する社員の意識を変えることと、会社全体が信頼関係が結ばなくてはならない。事故多発傾向にあった現場で2年間にわたり実施した取り組みから見えた事故防止で一番大事なものの、「信頼」を得るには、意見を聞き一つでもその意見を実行することである。	中俣 秀康
7	<b>唐津鉄道事業部における労働災害防止 への取り組み</b> 九州旅客鉄道㈱ 唐津鉄道事業部工務 電気担当課長	11:40	鉄道施設の保守においては、4大労働災害である触車、感電、墜落、交通事故の危険性と常に隣り合わせである。当事業所においては、工務関係社員だけでなく、列車乗務員や駅員など営業関係社員と一体となって労働災害事故防止に取り組んでいる。	平野 智也
(12:00～13:00 昼休み) 13:00				
8	<b>軌陸車連結用鉄道トクを使用したマク ラギ交換作業時の安全性向上</b> 東日本旅客鉄道㈱ 盛岡支社 一ノ関保線技術センター 計画科 施設技術係	13:00	鉄道工事で使用している人力のトクでは、資機材の運搬時に多くの労力と逸走等の危険が潜んでいる。そこで、軌陸型の工事用機械に連結して使用することのできる鉄道用トクを開発し、PCマクラギ交換工事において実際に使用し、検証することとした。その結果、安全性と効率性が向上した。	中野 寿
9	<b>JR赤穂線道床部分修繕工事における安全対策 ～墜落災害および公衆災害防止の取り組み～</b> 大鉄工業㈱ 神戸支店 姫路出張所 主任	13:20	JR赤穂線西相生～坂越駅間の劣化に伴う道床バラスト取替工事において、作業員の墜落災害や資機材の落下に伴う通行車両や通行者への公衆災害などの重大事故を防止するため、金具の考案製作およびその金具を活用した手すりの設置などを行い、無事故無災害で施工できた事例を紹介する。	大内 純平
10	<b>活線工法によるトラス橋架設の安全管理 について</b> 名工建設㈱ 甲府支店 土木部 土木課 工事係	13:40	活線工法によるトラス橋架設は、既設の線路線形を変えずに施工を行うもので、既設線路撤去から復旧完了まで、列車影響を最小限にする必要がある。時間制限がありやり直しがきかない状況のなか、入念な作業計画・手順の検討とともに、工事従事者の意識向上が重要なポイントであった。	岡田 久敏
11	<b>鉄道安全・安定輸送への貢献 ～命で命をつ なぐ本質の理解と意識向上への取り組み～</b> シーエヌ建設㈱ 軌道部 四日市軌道事務所 四日市事業所 係長	14:00	当社線路保守エリア内の同一箇所連続3件の退避不良が発生した。原因は、ルールの本質理解が不十分であったことである。そこで、「命で命を守る」をキーワードとし、線路内立ち入りMTや作業状況を動画撮影、結果を原因に反映させ、人の意識向上を図った。	篠田 和也
(14:20～14:30 休憩) 14:30				
12	<b>熊本高架古道BⅡ新設工事における安全 の取り組み</b> 九鉄工業㈱ 熊本支店 土木課 課長	14:30	熊本高架BⅡ新設工事の安全対策において、①限られた重機稼働範囲における既設構造物との接触防止対策、②鉄道工事特有の設備に対する存在の把握と注意事項の理解度向上、③リスクアセスメントを再評価した九鉄T-KYの導入、④リラックスできる現場環境等に取り組んだ。	石原 広一

# 安全管理活動分科会 (第3会場)

13	<b>墜落死亡労災に伴う高所作業環境の見直し について</b> 北海道旅客鉄道㈱ 苗穂運転所 検査科 車両技術主任	14:50	2015年12月に列車の屋根上から作業中の社員が墜落する死亡労災が発生した。この労災をきっかけに高所作業に関わる際の危険や問題点を職場内で集約し、高所作業時におけるルールや作業環境の見直しおよび教育を行い、安全の再構築に取り組んだ。	林 辰也
14	<b>札幌市営地下鉄車両整備における車体屋 根上作業のリスク低減策</b> 札幌交通機械㈱ 高速電車部 電車第三課 係長	15:10	地下鉄車両整備における車体屋根上作業で、新型車両の導入に伴い固定式安全柵を使用していた。本作業での墜落につながるリスクを洗い出し、車輪を付けた安全柵が車体屋根上の作業エリア全域を移動し、作業者を保護する安全柵の考案に取り組み、墜落のリスクレベルを低減した。	小玉 貴宏
15	<b>労働災害防止マップ ～気付きの感度を高めよう！～</b> 東武鉄道㈱ 南栗橋乗務管区 主任	15:30	当職場では、毎月職場安全衛生委員会を開催し、職場環境改善を行っている。職場内教育では、安全衛生・KYTを行い労働災害防止の意識向上を図っているが、さらに意識を高められないかと考えた。効果的な教育を行うにはどうすれば良いか、記憶に残る掲示物作成に工夫を施した。	大嶋 宏和
(15:50～16:00 休憩) 16:00				
16	<b>再発事故防止(注) 件名を活用した社員 への安全教育について</b> 東日本旅客鉄道㈱ 新潟支社 新潟電力技術センター 企画科 電気技術係	16:00	電力の職場では、三大労働災害(感電・触車・墜落)の危険がある。その中でも、感電事故防止に対する教育に力を入れている。過去に発生した感電事故を再発させないために、再発事故防止(注) 件名を活用し、自職場から同種事象を発生させない取り組みを行い、事故防止に努めている。	木村 貴史
17	<b>安全・確実な減速度測定への取り組み ～マス コンハンドルブレーキ7段ストッパーの製作～</b> 相模鉄道㈱ 運輸車両部 修車区 整備係	16:20	検査等を実施した後に行っている減速度測定において、新系式車両での正確なデータ取得を目的に、ブレーキハンドルを安定して操作できる治具の製作に取り組んだ。治具の着脱方法や、運転操作の妨害にならないよう工夫したことにより、不用意に試運転電車を走らせることがなくなった。	小泉 雅斗
18	<b>安全に関する意識改革の取り組み ～現場主体による安全活動～</b> 小田急電鉄㈱ 海老名検車区	16:40	当職場において作業中における人的ミスが散見された。発生のたび、後追いの対策を立てていたが、災害を未然に防ぐには危険を予知し対策を施すことが肝要であると考え、現場主体で活動する事故防止委員会が中心となり、各自の意識改革に向けて取り組んだ。	森本 昶司
17:00				
<b>10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....</b>				
19	<b>電気職場における感電墜落事故防止の 取り組みについて</b> 北海道旅客鉄道㈱ 釧路電気所 帯広派出所 電気技術主任(電力)	9:30	当職場で発生した感電墜落事故をふまえ、同種事故を起こさない対策を講じる必要がある。事故の発生を防ぐために保護具着用の再教育と高所作業時の安全帯使用を徹底した結果、安全意識を向上できた。引き続き、労働災害「ゼロ」の職場を目指していく。	仲山 和範
20	<b>グループ会社と一体となった災害防止 ～安全な作業場への成長と進化～</b> 九州旅客鉄道㈱ 大分車両センター 運輸指導係	9:50	JR九州では車両検査業務をグループ会社へ業務移管しているが、労働災害防止や安全に対する取り組みは一体となり実施することが重要である。大分車両センターで働く作業者からのヒヤリハットによる改善と災害事例の取り組みと、職場環境の変化と社員の労働災害防止意識向上を紹介する。	永田 真悟

# 安全管理活動分科会（第3会場）

21 線路上空送出し架設工法における安全対策  
大鉄工業(株) 土木支店 土木工事 第三部 所長  
田中 紀行

10:10  
新名神高速道路有馬川橋桁落下事故以降、全国で初めて手延べ式送出し工法での桁架設工事として大阪府高槻市のJR線の上空部分に2径間連続鋼床版桁を施工するにあたり、同種事故防止に向けたリスク検討と実施した安全対策および結果から得られた今後の課題を紹介する。

22 トロリ線断線復旧訓練を通じた労働災害防止  
東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社 設備部 電力課 主席  
星野 弘行

(10:30～10:40 休憩) 10:40  
鉄道の重大労働災害である「触車、感電、墜落」のリスクのある電車線作業で、普段の作業だけでなくトラブル対応時の労働災害防止のために、トロリ線断線復旧訓練の中でも安全ルール等も身につけるように取り組んだ。

23 「みんなで安全を作り上げる」ための具体的な取り組み  
西日本旅客鉄道(株) 大阪電気工事事務所 大阪電力工事所 電気管理係  
清水 弘之

11:00  
我々の担う大規模PJを工期内に無事故で完遂することを目的として、当工事所では「普段から様々な意見を言い合える風土の構築」「関係者が一体となって工事を進める意識の醸成」を図り、みんなで安全を作り上げるための具体的な取り組みを進めている。

24 安全のための本質を探究する運動  
名工建設(株) 京都建築作業所 大阪支店 建築部 作業所長  
廣内 真人

11:20  
当作業所では、①事故・労災の芽の摘み取りのため試験施工によるリスクの洗い出し、②点呼で要注意ポイントを全員に理解・納得させる工夫、③安全作業の確立のためルールを逸脱しない・させない指導、という3つの活動により、安全の本質を探究し危険について考える力を高めている。

25 建設現場における墜落・転落災害防止の取り組み  
九鉄工業(株) 福岡支店 建築課  
池田 孝宏

11:40  
建設業は他業種に比べ死亡災害の発生率が高い業種であり、特に墜落・転落災害がそのほとんどを占めている。今回、当現場における墜落・転落の危険ポイントについて事前にチェックを行い予防対策を図ったので、その成果を発表する。

26 安全拾得器の改良を図り、駅掛員の労働災害撲滅を目指す  
京王電鉄(株) 新宿管区 営業掛  
小林 隆太

(12:00～13:00 昼休み) 13:00  
近年、ホームドアの設置によりホーム上の安全は格段に向上したが、線路内に落とした品物の回収については、ホームドアを手動で開けるなどの時間や拾得方法に制限が生じている。駅掛員の安全を最優先に、短時間に全ての品物の拾得を可能にする安全拾得器改良を図り、労働災害撲滅を目指す。

27 気動車整備線における熱中症対策  
東海旅客鉄道(株) 東海鉄道事業本部 名古屋工場 計画科 車両技術係  
小森 庸平

13:20  
鉄道車両工場で最終検査整備を行う出場整備線建屋は熱中症になりやすい環境である。熱中症を未然に防ぐために、特に高温となる気動車整備線の風速を窓の開閉パターンおよび換気扇の有効活用により改善。輻射熱を断熱シートにより改善。屋根温度を水散布により改善した。

28 ヒヤリハット情報を有効活用するための取り組み  
(株)メトロレールファシリティーズ 安全防災部 指導事務係  
牧 昌範

13:40  
ヒヤリハット活動は、事故・災害防止のために重要であることから、収集した情報の有効活用方法について見直しを行った。従来のシートを再編集して見やすくし、周知方法については社内情報ツールを活用したことにより、ヒヤリハット情報の投稿数も増え、活用率が上がった。

29 線路内作業における触車事故の防止  
小田急電鉄(株) 秦野工務区 助役  
公平 茂

14:00  
線路内の作業は、ちょっとした油断や思い込みが重大事故につながりかねない。特に私たちが日々作業を行う区間は、急曲線箇所や橋梁などが多く触車災害発生リスクが高いことから、危険箇所についてリスク見積りをし、新たなルールを策定する等災害防止に取り組んだ。

14:20

# 安全管理活動分科会（第3会場）

30 駅施設の危険箇所のリスク評価とその改善策 ～当事者意識と安全意識の高揚～  
東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運輸営業部 大井町駅 駅務係  
山内 浩輔

14:20  
普段、従業員は階段・通路・扉を無意識に使用している。しかし、建築的制約があるなかで造られているため、危険因子を洗い出し急な階段、狭い通路、扉開閉など起こり得る事故やケガのリスクを評価し、改善へ工夫を凝らした取り組みを行った。

14:40

# 機械・設備等の安全分科会

会場 はまぎんホール 1階 ヴィアマーレ [横浜市西区みなとみらい3-1-1]  
交通 JR「桜木町駅」北口 徒歩5分  
横浜市営地下鉄「桜木町駅」徒歩5分  
みなとみらい線「みなとみらい駅」クイーンズスクエア連絡口 徒歩7分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

1 クレーンの残留リスク通知情報とその低減保護方策について  
(一社)日本クレーン協会 東海支部 クレーン製造整備部会 部会長 (株)テックササキ  
西森 義貢

9:30  
このほど、クレーンメーカー14社が集うクレーン製造整備部会は、クレーン作業の安全のために、共同でリスクアセスメントを行うとともにメーカーやユーザー等が活用できる「残留リスクの通知情報モデル」と「リスク低減保護方策」の2種のリーフレットを5年がかりで完成させた。

2 設備の危険源洗い出し～リスクアセスメント活動～  
リスパック(株) 総合安全衛生推進室 副主管  
和下 喜義

9:50  
平成26年、設備による休業4日以上労働災害が2件発生し、翌年には「安全管理特別指導事業場」に指定された。それまでは危険箇所にカバーがあれば良判定としていたため、危険源が洗い出されていないと指導された。危険源を全て洗い出し、ハザードマップ作成⇒評価⇒改善⇒共有する取り組みを始めた。

3 引張試験作業の安全対策 ～世界初引張試験サンプルセット治具の考案～  
JFEスチール(株) スチール研究所(京浜地区) 薄板研究部  
町屋 知宏

10:10  
私たちの職場では、主に自動車用鋼板の研究開発をしており、材料特性を引張試験で評価している。新入社員から作業で可動体に手を入れることが不安との声がありテーマとして取り組んだ。治具の製作・検討・改善を繰り返すことで、ノータッチ化を実現し、誰でも安全作業が可能となった。

4 コンベア秤量機点検作業の安全確保  
新日鐵住金(株) 八幡製鐵所 設備部 製鉄整備室 戸畑製鉄動力計装整備係  
塚本 佳典

10:30  
災害が多発したため、重大なケガにつながるような作業を抽出したところ、コンベア秤量機における点検作業が挙げられ、改善に着手した。オフラインでの実証試験や施工者の技能を応用した治具考案など知恵と工夫を凝らすことによってリスク低減を図り、施工者の安全を確保した。

5 自動運転技術のもたらすもの  
日産自動車(株) 総合研究所 所長  
ライアンスグローバルダイレクター  
土井 三浩

(10:50～11:00 休憩) 11:00  
自動車の自動運転という最先端の技術開発を担われている土井講師に、自動運転がもたらす将来の交通システム、AIについてのお考えや、自動運転の安全コンセプトについてお話しいただき、今後の労働災害防止の分野への新たなアプローチの一助とする。

6 挟まれ・巻き込まれリスクの軽減～傾転機投入方法の改善～  
秋田リサイクル・アンド・ファインパック(株) 安全環境部門 サプリダー  
熊田 竜也

(12:00～13:00 昼休み) 13:00  
2015年2月に大雪で工場が倒壊し、工場の移転・復旧にあたり原料供給方法が変更となった。新設備である傾転機の挟まれ・巻き込まれなどの災害リスクを低減させることを目標として活動した。改善を行っていくなかで作業員全員の安全意識向上にもつなげることができた。

13:20

機械・設備等



# 機械・設備等の安全分科会

<p><b>6 有害物との接触リスク回避改善</b> DOWA ハイテック(株) めっき加工部 リーダー</p>	<p>13:20 シアン廃液作業を高リスク作業と捉え取り組んだ。めっき槽から配管を接続し、現状の手作業を排除。受けタンク側には液面センサーを設置し、警報とインターロック、またシアンガスの排気処理構造も敷設した。その結果、作業時間短縮も達成し、安全性、生産性を両立させた改善ができた。</p>
<p><b>7 ガスタービンエンジン運転職場のリスクアセスメントによる安全対策</b> 川崎重工(株) 明石工場 航空宇宙システムカンパニー 生産本部 明石製造部 明石工作課 班長</p>	<p>13:40 班長任用時の安全衛生活動として、リスクアセスメントの手法を活用し、担当するガスタービンエンジンの運転作業に潜む危険有害要因の対策を実施した。安全面の災害を防止するだけでなく衛生面での対策も行い、さまざまなリスクを低減することで安心して働ける職場づくりが実現できた。</p>
<p><b>8 プレス作業における災害防止に向けた取り組み—むかしのプレスは恐かった。今は…—</b> (公社)神奈川労務安全衛生協会 プレス委員会 委員長(日産自動車(株)横浜工場 第二製造部)</p>	<p>14:00 重篤な労働災害に至る可能性が高いプレス作業の安全化に向けた独自の啓発活動(プレス災害防止総合対策冊子の配布、プレス作業安全の基本DVD3巻による教育、月例点検マニュアルの展開)および平成23年プレス機械構造規格の大幅改定に伴うそれらの見直しについて発表する。</p>
<p><b>9 安全診断(新規導入設備の設備診断)の充実</b> AGC ディスプレイガラス米沢(株) CSR室 主任</p>	<p>14:30(休憩) 14:30 2016年度、弊社で3件もの休業災害が発生。対策の検討段階で、新規設備導入時の準備不足が原因と判明。そのため、ハード・ソフト・人の面から稼働体制をチェックする仕組みを考案。チェックシートの作成・運用は困難だったが、運用後重篤災害の発生なく現在まで継続中である。</p>
<p><b>10 製品搬送用ローラー横断場所の安全化</b> 親和パッケージ(株) 倉敷事業所 電磁職場</p>	<p>14:50 操業当初からの難課題として、製品搬送用コンベアのローラー上を直接横断する作業があり、転倒や段差での捻挫の危険があった。安全に横断できないが、モノづくりを得意とするグループが試行を繰り返しながら、これまでにない分割式横断デッキの完成にごこつた。</p>
<p><b>11 ラボ用熱処理炉早期立ち上げに向けたリスク最小化への取り組み</b> (株)神戸製鋼所 真岡製造所 アルミ板研究所 研究試験室</p>	<p>15:10 ラボ用熱処理炉導入に際し、早期に立ち上げての試験開始との要望を受け、従来からの装置導入後に安全対策を施すという取り組みとは異なる新たな取り組みに挑戦した。設計・製作・導入の段階ごとにリスクアセスメントを実施、先手先手で改善を行い、安全かつ早期の立ち上げを達成した。</p>
<p><b>12 FMEA法を用いた安全、品質、生産性の向上</b> (株)グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン 製造部 製造1課 ショップリーダー</p>	<p>15:30 熱処理・金属加工を行っている作業現場において、安全性・品質・生産性を上げるためFMEA(故障モード影響解析)を行った。一般的なFMEAでは時間がかかることと経年劣化が評価できないため、同法を応用工夫し、リスク分析および改善活動を行った。</p>
<p><b>13 カラーバンドオンライン塗装化への挑戦</b> 大阪富士工業(株) 知多支店 生産工程課 中シ精整課 班長</p>	<p>16:00(休憩) 16:00 従来、パイプを転がしながら行っていた5条のカラーバンド塗装について、パイプでの挟まれリスクを解消するために遠隔で塗装する装置の開発に取り組んだ。その結果、既設の自動印字ラインに汎用のスプレーガンを流用した独自装置を設置して、パイプ転がし作業を廃止することができた。</p>
<p><b>14 ロボット制御セル生産システムのリスクアセスメントおよび安全性と生産性の両立</b> IDEC(株) 国際標準化・Safety2.0推進部 マネージャー</p>	<p>16:20 リスクアセスメントに基づいて、様々な安全機器で十分なリスク低減が行われたロボット制御セル生産システムは、高生産性と安全性の両立を17年間実証している。これはリスクアセスメントが非常に重要であることを示しており、新しい概念の協調安全ではさらなる進化が必要である。</p>

# 機械・設備等の安全分科会

## 機械・設備等の安全分科会 会場ロビーにて「機械安全の相談コーナー」開催!

**会場** はまぎんホール 1階 ヴィアマーレ [横浜市西区みなとみらい3-1-1]  
**交通** JR「桜木町駅」北口 徒歩5分  
横浜市営地下鉄「桜木町駅」 徒歩5分  
みなとみらい線「みなとみらい駅」クイーンズスクエア連絡口 徒歩7分



**10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....**

<p><b>1 世界標準の災害対応ルールに基づいた災害対応訓練の有効性</b> スリーエムジャパン(株) 相模原事業所 安全衛生製品事業部 学術部 主任</p>	<p>9:30 大規模災害被災時における事業所内関係者の人的損害・物的損害を低減するために、米国型災害対応訓練を日本国内に適合するように改良を施した。当事業所の災害対応強化に向けて実施している事業所救助班・救護班への継続訓練等とその実施効果について紹介する。</p>
<p><b>2 より安全な事業所を求め、連携強化で取り組む緊急時対策</b> 関西ペイント(株) 平塚事業所 事務部 安全環境グループ</p>	<p>9:50 化学工場の火災発生時には危険物の種類、量、建物の構造等を正確に消防に伝えないと消防は消火活動に移れない。消火活動開始にあたって本当に必要な情報は何か、水利はどこか、重化学車の経路は、など消防本部と連携して整備を行ったことを中心に当事業所の緊急時対策を報告する。</p>
<p><b>講演 爆発・火災事故とリスクマネジメント</b> 横浜国立大学 先端科学高等研究院 副高等研究院長・教授</p>	<p>10:10 長年にわたる研究成果の中から、工場等における爆発・火災の事故事例を紹介しつつ、そのリスクマネジメントについて解説する。</p>
<p><b>3 当社における首都直下地震対応訓練からの取り組み</b> 国際石油開発帝石(株) HSEユニット セキュリティ・危機管理グループ</p>	<p>11:20(休憩) 11:20 2011年に発生した東日本大震災では、赤坂にある当社での対応は必ずしも十分ではなかった。その際の反省を受け、毎年首都直下地震を想定した危機対策本部の訓練を実施している。訓練後の振り返りから当社で取り組んできたルールの見直しや新たな体制づくり、設備改善などを報告する。</p>
<p><b>4 実効性のある自衛消防組織を目指して</b> マツダ(株) 安全健康防災推進部</p>	<p>11:40 大規模事業所として、火災のみならず大規模地震・水害時にも機動的・自律的に行動でき、被害を小規模の段階で抑えることのできる自衛消防組織を、仕組みづくり・人づくりにポイントを置き構築を進めてきた。会社・従業員・地域が連携を取り災害に強い体制づくりに取り組んだ。</p>
<p><b>5 箱根噴火警戒レベルを乗り越えてお客様の安全で安心な利用のための活動</b> 藤田観光(株) 箱根小涌園 総務課長</p>	<p>12:00(昼休み) 13:00 当社では、宿泊施設および日帰り施設を有し毎日多くのお客様を受け入れている。そのなかで従業員の安全とお客様が安全で安心して利用していただけるよう、日々活動している。今回、(公社)神奈川労務安全衛生協会の救急法委員会と連携した救急法講習や、食品衛生、防災等安全対策についての活動を紹介します。</p>

# 防災・危機管理分科会

<p><b>6</b> 富士山大規模噴火に備えたBCP対応</p> <p>富士フィルム(株) 神奈川工場 事務部 環境安全グループ マネージャー</p> <p><b>大八木 功</b></p>	<p>13:20</p> <p>富士山は1707年の宝永噴火以来沈黙を続けており、いつ噴火が起きてもおかしくない。大規模噴火の前には予兆があることから、いかに早く察知し、いち早く減災措置に取り組むかがBCPの最優先課題と考え、事前の予兆把握、減災措置、早期生産再開について対応策を検討し、訓練を進めてきた。</p>
<p><b>7</b> 大規模災害時における駅非常用電源確保のための安全な作業方法の確立</p> <p>東海旅客鉄道(株) 新幹線鉄道事業本部 静岡電力所 変電・電灯グループ 電気技術係</p> <p><b>富坂 岳史</b></p>	<p>13:40</p> <p>大規模災害時等、長期間の駅停電時における非常用発電機の燃料の継続的な確保について、作業方法を検討した。未経験の作業であるため、一つひとつの作業に対して危険要因を抽出し、リスクアセスメントによるリスク排除を行った作業方法を確立し、同設備を保有する各駅へ展開した。</p>
<p><b>8</b> 災害、防災備蓄品の管理とCSRを組み合わせた活動と社外への展開</p> <p>NTTテクノクロス(株) 横浜事業所 総務部 総務部門 主査</p> <p><b>石原 悠子</b></p>	<p>14:00</p> <p>災害備蓄品(以下、備蓄品)の管理業務が属人化、賞味期限切れ等の課題を抱えていた。課題を解決し、さらにフードバンク団体と連携し備蓄品の寄付を実施できる仕組みをクラウドサービス化(そなえるんCSR+)した。コンセプトに賛同し活用いただいた企業の輪が広がってきている。</p>
<p><b>9</b> 災害事故を乗り越えて～災害現場から得た教訓と取り組み～</p> <p>高砂香料工業(株) 平塚工場 製造部長</p> <p><b>押久保 重政</b></p>	<p>14:20</p> <p>2013年4月10日に当工場の食品香料製造施設を全焼する火災が発生した。怪我人は出なかったが、弊社の安全管理体制を見直す大きなきっかけとなった。本発表では火災の発生原因や当時の状況を振り返るとともに、火災現場から得た教訓とそれらに対する取り組みについて報告する。</p>
<p>14:40</p>	

# 安全衛生教育分科会

会場 横浜新都市ビル (そごう9階) 新都市ホール [横浜市西区高島2-18-1]  
交通 「横浜駅」東口 徒歩5分



10月18日(木) プログラム (10:00開場) ※他会場と開場時間が異なりますので、ご注意下さい。

<p><b>1</b> 群馬県立産業技術専門学校における若者安全教育について ～グローバルな視点を見据えて～</p> <p>群馬県立太田産業技術専門学校 訓練指導第一係 技師</p> <p><b>長谷川 豪</b></p>	<p>10:30</p> <p>若年訓練生に対する安全衛生教育は、技能と一体で、初期段階から習慣づけて行うことが大切である。そこで、関連コースの指導員により「セーフティファースト推進研究会」を立ち上げ、安全衛生プログラムの研究を行い、実際の訓練に適用した。</p>
<p><b>2</b> アーク溶接作業における感電災害防止対策マニュアルの作成</p> <p>(公社)神奈川労務安全衛生協会 溶接専門委員会 委員長(株)IH技術開発本部 生産技術センター)</p> <p><b>平野 賢治</b></p>	<p>10:50</p> <p>アーク溶接作業における感電災害の防止対策は多くの資料事例があるが、理論的な内容やデータの記載が少なく、対策も「自動電撃防止装置をつける・濡れた状態では作業しない」などである。本発表では理論的な内容とデータを提示し、感電について理解と応急処置方法などを紹介する。</p>
<p><b>講演</b> 対話型安全パトロールでリスクの抽出と作業者の安全意識向上を目指す</p> <p>新日鐵住金(株) 安全推進部 部長</p> <p><b>朱宮 徹</b></p>	<p>11:10</p> <p>安全パトロールは作業場の状態面、行動面におけるリスクを抽出することが主目的であるが、その中で作業者との対話を積極的に行うことにより、作業者の安全意識や安全知識の向上につなげることも可能である。その方法についてポイントを解説する。</p> <p>(12:10～13:00 休憩) 13:00</p>

# 安全衛生教育分科会

<p><b>3</b> いつでも・どこでも出張「安全体感訓練」</p> <p>アズビル(株) 大崎事業所 サービス本部 サービス安全品質推進部 安全マイスター</p> <p><b>山内 孝秀</b></p>	<p>13:00</p> <p>たとえば感電経験のない者へ電気の危険性を伝えるには限界がある。このことから安全体感訓練を開始して4年が経過した。訓練設備を工場に常設するのではなく、必要とする事業所に機材と安全マイスターを送り機動性を持たせて実施している。毎年創意工夫で改善を重ねた訓練成果を発表する。</p>
<p><b>4</b> 作業員個人の安全意識醸成・向上を目的とした3Dアニメによる教育</p> <p>(株)IH 資源・エネルギー・環境事業領域 原子力SBU 横浜工場 安全衛生・業務グループ 主査</p> <p><b>佐藤 光浩</b></p>	<p>13:20</p> <p>1000日無災害記録達成からの油断やおごり、経験不足作業員の増加などで低下していた安全感を、3Dアニメを使った教育で再度、意識を醸成し向上させた。運用にあたっては安全教育全体を網羅するよう工夫し、職場で安全作業が実践できる取り組みとした。</p>
<p><b>5</b> “また受講したくなる”体感型教育の実践</p> <p>三機工業(株) 安全衛生品質環境推進室 安全衛生管理部</p> <p><b>櫻岡 宏樹</b></p>	<p>13:40</p> <p>“また受講したい”と感じさせる教育とは一体どんな教育だろうか?その答えは、朝の受付から始まる小さな工夫の積み重ねの中に隠されていた。日頃開催している教育のうち、体感型教育の実践状況を中心に、ベテランから若手層の受講生に飽きずに受講してもらうための工夫を紹介する。</p>
<p><b>6</b> 転倒災害撲滅に向けた取り組み</p> <p>(株)日立アライバインベストメント 横浜サービスセンター ビジネスサービス本部 ビジネスサービスマネジメントセンター 第一部 安全衛生グループ</p> <p><b>立和名 勇介</b></p>	<p>14:00</p> <p>当社は日立製作所の大森地区、横浜戸塚地区他の安全衛生業務を受託している。受託している事業所の労働災害は転倒災害の割合が高い特徴がある。災害撲滅に向けて、転倒防止ハンドブック作成、ITツールを活用した教育他、取り組んだ施策について紹介する。</p>
<p><b>7</b> 配電工事協力会社の作業責任者認定制度について</p> <p>(株)ユアテック 電力本部 配電部 安全・人材育成グループ 副長</p> <p><b>佐々木 久順</b></p>	<p>(14:20～14:30 休憩) 14:30</p> <p>当社配電部門では、作業責任者の指揮・資質向上を図ることを目的に「作業責任者認定制度」を制定し、認定資格を設けている。さらに作業責任者一人ひとりの能力評価を行う「協力会社作業責任者指揮能力向上支援制度」を新たに導入し、支援・指導を強化する取り組みも行っている。</p>
<p><b>8</b> 安全衛生教育の充実 ～体感訓練～</p> <p>(一社)日本自動車工業会 安全衛生部会 Aグループ研究会委員(三菱自動車工業(株) 岡崎製作所 管理部(安全衛生担当) 担当マネージャー)</p> <p><b>石川 雄一</b></p>	<p>14:50</p> <p>「危険を危険と捉える感性」はどうすれば高めることができるのか。休業災害要因の過半を占める「うっかり不注意」による不安全行動を撲滅するため、五感を刺激し長く記憶に留まる体感訓練の有効性に着目。さらに、研究会7社における危険体感訓練の事例を発表する。</p>
<p><b>9</b> 役割と責任の明確化による事故災害ゼロに向けての取り組み</p> <p>日本通運(株) 海外引越事業支店 営業推進部 業務・CSR</p> <p><b>小林 哲也</b></p>	<p>15:10</p> <p>事故災害ゼロへ向けての取り組みを日々実施しているが、毎年数件の事故災害が発生している。この現状をカイゼンするため担当それぞれの「役割と責任」を再度見直し明確にすることにより、一人ひとりが腹落ちし全員参加型の取り組みとするとともに、PDCAを回す仕組み作りに取り組んでいる。</p>
<p><b>10</b> 新入社員を対象とした教育体制を確立し労災ゼロを目指す</p> <p>有楽製菓(株) 札幌工場 観光事業部 生産部 生産課 係長</p> <p><b>加藤 宰</b></p>	<p>15:30</p> <p>新入社員の受け入れ体制と教育体制を見直し、新人向けの安全教育マニュアルを作成。安全に対する理解を求めて安全教育を3回実行することとした。不安全行動や危険に対する理解度が低い新入社員を対象とした安全活動の改善から災害ゼロを目指していく。</p>
<p><b>11</b> JXTGエネルギー(株)根岸製油所の安全への取り組み</p> <p>JXTGエネルギー(株) 根岸製油所 環境安全グループ</p> <p><b>尾田 佳寛</b></p>	<p>(15:50～16:00 休憩) 16:00</p> <p>当所は構内働く社員および協力会社員の安全を確保しつつ、安全定操業と労働災害ゼロを達成するために「チーム根岸」を合言葉に協力会社とともに日々各種安全活動を展開している。今回は、協力会社と一体で行った安全活動の中から、近年力を入れている活動について紹介する。</p>
<p>16:20</p>	

# 安全衛生教育分科会

12:20  
**12 安全継承をきっかけとした安全活動の改善 ～日進月歩の安全活動～**  
(株)総合車両製作所 横浜事業所 経営管理本部 安全企画部(安全衛生)  
**溝部 美優**

熟練の作業者が減っていくなかで若手社員への技術継承は急務であり、それに伴い安全継承も必要であるが、既存の安全活動が風化していた。今回、若手社員への安全継承をきっかけに危険体感設備を立ち上げるとともに、一貫性のある安全活動に改善しリスク管理に取り組んだ。

16:40  
**13 災害ゼロ職場づくり!**  
日産自動車(株) 横浜工場 第一製造部 エンジン課保全 工長  
**橋本 哲夫**

今までも安全活動はいろいろと実施してきたが、2017年は全課で災害が発生してしまった。災害に対し個別の対策をして行くだけではすべての災害を防止することは困難と認識し、全課一体となった活動を決め、災害ゼロに向けた職場づくりを目指す活動を紹介する。

17:00

## 10月19日(金) プログラム(10:00開場) ※他会場と開場時間が異なりますので、ご注意ください。

10:30  
**14 安全教育における理解度向上プログラム～時代とともに進化する人財育成を目指して～**  
(株)シンニチロ 水島事業所 コークス部 炉上グループ 班長  
**大内田 一生**

社内における安全教育を定期で実施しているが、教育後にテストをすると平均理解度が50%程度である。特に若年者の理解度が低かったため、流行のスマホをヒントに、タブレットを導入した教育ステップを構築し、社内システムに取り入れた。成果として、理解度を95%以上に向上できた。

10:50  
**15 騒音職場における体験型耳栓教育の効果～耳栓着用率向上に向けた取り組み～**  
JFEスチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区) 安全健康室  
**大森 智代美**

耳栓着用時でも必要な音が聞こえることを体感できる体験型耳栓教育を実施した。アンケート結果から、業務で必要な音は聞こえることが確認された。また、業務指示は耳栓着用時の方が正しく聞き取れた。従来の教育では耳栓着用に至らなかった作業員においても耳栓着用率が改善した。

11:10  
**16 ビデオを活用したヒューマンエラー防止**  
大鉄工業(株) 大阪支店 大阪出張所  
**東野 翔**

当社大阪支店では、労働災害・列車の輸送障害を撲滅するために、様々な取り組みを実施している。そのなかでもヒューマンエラーによる取り扱い誤り防止として、自らの行動をビデオ撮影し、後に振り返ることにより基本動作の定着に効果があり事故防止につながった取り組みを紹介する。

11:30  
**17 京都大学における安全衛生教育の新たな取り組み**  
国立大学法人 京都大学 環境安全保健機構 安全管理部門 准教授  
**松井 康人**

国立大学が法人化されてから14年が経過し、総合大学に求められる教育は多岐に渡っている。構成員が実験室で日常的に使用している配管メーカーなどと協力し、新たな安全衛生教育を試みた。ウェブを通じた配信についても進めており、近年の新たな取り組みについて紹介する。

11:50  
**18 ロボットを用いた生産システムのリスクアセスメント手法の進化および安全人材教育**  
IDEC(株) 国際標準化・Safety2.0推進部  
**延廣 正毅**

労働安全および機械安全の実現にはリスクアセスメントが不可欠である。しかし、最近普及しつつある人・ロボット協働システムにおいては「隔離と停止」に基づく従来のリスクアセスメント手法だけでは不十分であり、新しいリスクアセスメント手法および安全人材教育が不可欠である。

(12:10～13:00 昼休み) 13:00

**19 職場の安全風土改革に関する取り組み**  
西日本電信電話(株) 設備本部 サービスマネジメント部 サービス戦略部門  
**澤村 剛**

安全取り組みの一環として、各担当に安全リーダーを配置(約628名)して日々のサイクルの中で安全活動を率先実施することで安全施策を牽引している。安全リーダーには、周囲に働きかけるレベルが必要のため、社内資格取得や研修参加により担当の安全レベルの底上げを図っている。

13:20

# 安全衛生教育分科会

13:20  
**20 NHKグループの安全衛生活動**  
日本発条(株) 技術本部 安全環境部 主任  
**山下 満里子**

NHKグループでは安全管理体制を2014年に大きく変更した。従来は事業所単位の安全衛生活動だったが、生産事業本部ごとに安全衛生の責任者を置き、生産事業本部の特徴に合わせた活動を推進している。また、KYT教育を見直し、事業所に沿った実践的なKY活動に取り組んでいる。

13:40  
**21 自職場安全対策の取り組み**  
日産自動車(株) 横浜工場 工務部 生産課  
**三枝 浩二**

物流職場ではフォークリフトやトラッキーなどの動力車を扱っており、一步間違えれば作業員や歩行者を巻き込み、重大災害につながる恐れがある。災害リスクを早期に削減するため、自職場で物的対策の改善できる人材を育成し、安全活動に取り組んだ。

14:00  
**22 無災害へ向けた危険体感教育と従業員意識向上への取り組み**  
日清オイリオグループ(株) 横浜磯子事業場 環境保安課 主事  
**大沼 一秀**

食品製造業における労働災害と弊社で発生した労働災害の傾向から「危険体感教育プログラム」を作成、作業に潜む危険を擬似的に体感することで、危険に対する感受性を高める講座を開催している。本講座の内容等とサイネージや掲示物などを利用した情報共有について発表する。

14:20  
**23 建設現場における作業員の危険意識改革と繰り返し型災害防止への取り組み**  
(株)ユアテック 空調管設備部 部長  
**吉田 清**

震災後、東北の建設現場では経験の少ない作業員や若年者が増え、ナイフや電動工具による災害、可搬式足場や脚立からの転落・墜落災害が繰り返し発生している。このことから、「繰り返し災害防止」を目指し「安全文化のたゆみない構築」に向けた、当社の取り組みを紹介する。

14:40

# ゼロ災運動分科会／交通安全分科会

**会場** ランドマークプラザ 5階 ランドマークホール [横浜市西区みなとみらい2-2-1]  
**交通** みなとみらい線「みなとみらい駅」クイーンズスクエア連絡口 徒歩2分  
 JR「桜木町駅」北口 徒歩5分



## 10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

9:30  
**1 安全文化レベル向上の取り組み**  
東亜石油(株) 横浜製油所 製造部 製造一課  
**水流 一平**

当社では従業員の安全文化レベル向上を目的として2012年から「安全文化レベル向上検討プロジェクトチーム」を設立し、事故ゼロ・労災ゼロ・環境トラブルゼロのトリプルゼロ達成に向けて意識改革等の様々な全社活動に取り組んでいる。

9:50  
**2 相模原の安全活動活性化物語～褒める文化への変革～**  
三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株) 製造部 安全・教育・TPM推進チーム 主任チーム統括  
**須藤 孔心**

さまざまな安全活動を行っているなか、安全活動自体のマンネリ化・形骸化という課題があったが、従来実施していた安全活動を見直し、真に災害を未然防止する活動に進化させるため、現場作業員にスポットを当てた活動に変革したことで、災害件数減少と無災害継続を達成した成果を発表する。

10:10  
**3 KYTの現場実践への取り組み(実演)**  
(株)東研サーモテック 本社工場 工場長  
**小野 慎一**

金属熱処理会社の工場が取り組んだゼロ災運動を報告する。  
 ①KYTの現場導入時に実践集中研修を行い、ボードKYTを10分以内で実践。  
 ②問いかけKYで現場KYTの指導、援助、激励を行う。  
 ③作業指示レベル向上を目指し、適切指示の活動を開始。KYTと問いかけKYの演練を紹介する。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

# ゼロ災運動分科会／交通安全分科会

10:40  
**4 先輩の涙と汗の物語IT版「失敗訓」KY・RAに活かそう(実演)**  
 千代田システムテクノロジーズ(株) 計装・電気事業本部 メンテナンス事業部  
**楠 新二**

工事の失敗事例を用いたTBM-KYは災害・事故防止に大きな効果を発揮している。私たちは「失敗の中にこそゼロ災最大のヒントに有り」との思いで、数々の失敗事例を見て判るワンポイントにし、タブレットやスマホで誰でも簡単に利用できるIT版「失敗訓」を製作・活用している。

11:00  
**5 元請KYトレーナー指導による第一線作業員に対する現場KYの質的向上(本物KY)のための活動(実演)**  
 (株)TTK 福島支店 安全品質管理部長  
**磯崎 雅幸**

事故撲滅に向けては安全施工サイクルがキーポイントである。現場でのKY、指差呼称の確実な実践が最大の課題であり、現場実践KYの質的向上のため、元請KYトレーナーを育成しその指導のもと、不安全な行動・不安全な状態の撲滅に向けた「本物のKY・指差呼称の実践のゼロ災活動」を展開している。

11:20  
**6 本質安全化に向けて、富士工場安全衛生活動の歩み**  
 ボラテック富士(株) 富士工場 工場長  
**中根 慎治**

2012年の設立以来、生産設備を拡充しながらの安全衛生活動を推進している。新設工場の課題であるリーダー育成を中心に安全最優先の意識改革を行い、危険予知や設備の本質安全化を社内工夫で実施。安全最優先の考えのもと生産性向上を図り増産に至る事業を確立した。

11:40  
**7 形式的なKYから実践的なKYへ～社員のKY支援～(実演)**  
 富士石油(株) 袖ヶ浦製油所 製造部 製造一課  
**柳川 通雄**

職場自主活動の活性化を目指し、KY推進リーダーを中心に所内活動の実践につながる活動を進めている。その一つとして協力会社員への「問いかけKY」や社員の「KY現場研修会」の訓練において、必ず管理者から実施した各KYTに対する感謝の気持ちを伝え、活動の活性化を図っている。

(12:00～12:50 昼休み) 12:50  
**運動展望**  
**イキイキとしたKY活動で現場(職場)の力を強くする**  
 中央労働災害防止協会 教育推進部 ゼロ災推進センター 所長  
**鈴木 博仁**

国の「第13次労働災害防止計画」に併せて策定された新たな「ゼロ災安全全員参加運動推進計画」を解説するとともに、OSHMSのISO化、第三次産業における労働災害の増加等新たな動きに対応するゼロ災運動の展望を紹介する。

13:20  
**事例報告**  
**障害者も全員参加!社長が実践する安全で働きやすい職場づくり(実演)**  
 YKK 六甲(株) 代表取締役社長  
**倉本 哲治**

多数の障害者を雇用するなかトップダウンで安全活動を展開しているが、視覚障害者向けに映像教材を工夫する等して全社員の安全衛生水準の維持向上に努めている。親会社からの人的支援を受けて、一昨年からKYTや職場巡視活動を定例化し、今後さらに充実した活動の展開を進めていく。

13:50  
**事例報告**  
**中国(久保田農業機械(蘇州)有限公司)へのゼロ災運動と正しい手法の普及に向けて(実演)**  
 (株)クボタ宇都宮工場 勤労課 安全衛生担当  
**板橋 陸**

久保田農業機械(蘇州)有限公司のマザー工場である当工場が、安全文化の全く異なる中国の工場へゼロ災運動(KYT)を持ち込み、言葉の通じないなかで、正しいKYTの手法とゼロ災運動の理念を根付かせるために悪戦苦闘した過程を報告する。

(14:20～14:30 休憩) 14:30  
**8 ドライビングシュミレータを用いたコメンタリー運転による交通事故防止**  
 東海旅客鉄道(株) 東海鉄道事業本部 大垣信号通信区 電気技術係  
**早田 有利**

当区では交通事故根絶に向けて、コメンタリー運転に取り組んでいる。より効果的なコメンタリー運転を実践するために、大学と共同で研究を行い、有効なコメンタリー運転の方法を模索した。研究結果として、ドライバー主導によるコメンタリー運転が効果的であることがわかった。

14:50  
**特別報告**  
**ドライブレコーダーを活用した交通危険予知**  
 中央労働災害防止協会 教育推進部 ゼロ災推進センター  
**市丸 麻衣子**

近年、交通事故記録等に活用するため、社有車に映像記録型ドライブレコーダーを搭載する事業場が増えているなかで、ドライブレコーダーの画像を活用した交通危険予知を職場で進める方法を紹介する。

(15:20～15:30 休憩) 15:30

# ゼロ災運動分科会／交通安全分科会

15:30  
**表彰式**  
**ゼロ災運動 表彰式**  
 (15:50～16:00 休憩) 16:00

**講演**  
**危険を察知する目～冒険から学んだ安全な職場～**  
 (一社)コミュニケーション教育協会 講師  
 プロスキーヤー・冒険家  
**庄司 克史**

危険を察知するために、どんな視野で自然を見るか?自然からのサインが必ずある。そこを読み取れば、事故は最小限にすることができる。こうしたことは大自然の中での冒険に限らず、危険を伴う現場での作業にも共通するはずである。これまでの冒険の中での経験から、安全とは何かを語る。

17:00

# ワークスタイル変革等分科会

**会場** ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー (横浜市中区山下町16)  
**交通** みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

9:30  
**1 転倒リスク撲滅大作戦!! ～もう後ろを振り向かない～**  
 JFEスチール(株) 東日本製鉄所(京浜地区) 厚板部 厚板工場 精整職場 社内検査  
**竹尾 まどか**

超音波検査では鋼板表面を検査台車で全身・交代を繰り返す行いが、ホース・ケーブルに足を引っ掛け転倒、後退時に足を踏み外して転倒するなどのリスクがあり難課題だった。今回、現業系女性社員の視点発案で、台車の軽量化や作業方法を見直し、転倒リスクを撲滅させた。

9:50  
**2 働きやすい職場環境の整備とみんなで取り組む健康づくり**  
 東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運転車両部 奥沢乗務区  
**山本 良一**

設備の老朽化による職場環境の劣化に対し、特に安全面においては区員からの意見を収集し、重要案件から事故の芽を摘みとった。また肥満対策として、区員全員に万歩計を配布し歩く意識を共有するとともに、誰でも参加できるレクリエーションを企画し健康増進を図っている。

10:10  
**3 ハンマー振り作業の排除 ～三つの作法で築く安全職場～**  
 新日鐵住金(株) 大分製鉄所 製鉄部 高炉工場 第二高炉課 機動運転C組  
**新家 萌菜**

私達が働く機動運転班で当たり前に行っていた作業が、女性社員配属後当たり前でできなくなるという現実を社内全員が共有化したことをきっかけに、取り組みを開始した。今では、取り組み開始時の不安もなくなり、類似箇所のさらなる改善に向けて積極的の活動を展開中である。

(10:30～10:40 休憩) 10:40  
**4 隠れた危険を見出し改善 一人ひとりが安全に働ける職場にシフト**  
 日産自動車九州(株) 工務部 工務課 第一塗装保全 工場  
**瀧川 洋年**

職場から二度の災害を発生させてしまった。どちらも50歳以上の作業者である。個人の危険感受性だけでなく、仕事のペースとなる点検基準書に高齢化の4要素を視点に加えてリスクを洗い出し、その場面において必要な対策を明確にすることで、高齢者でも安全に作業することができた。

11:00  
**5 「働き甲斐を感じよう!」大作戦～マナーアップ運動～**  
 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 飛鳥工場 飛鳥健康管理科 保健師  
**市丸 麻衣子**

働き甲斐ある工場・活気ある職場および災害撲滅を目的として、2007年から多階層によるマナーアップ運動を開始した。2016年からは、危機管理意識の高揚を目的に加え、緊急時を想定した消火器取扱・担架搬送・心肺蘇生法等の模擬訓練を実施している。これまでの活動について紹介する。

11:20

# ワークスタイル変革等分科会

6	女性作業者の重筋作業の改善における快適な職場づくり ～わたしでもできる!組立作業～ 日産自動車(株) テクニカルセンター 車両生産技術本部 新車生産準備技術センター 試作検証課 中市 美咲	11:20	車両試作作業における女性従業員への労働安全の取り組みとして、その活動を産業医や保健師とともに推進している。今回の事例は作業員負担軽減について、エルゴノミクスの観点で作成した社内独自の作業性評価基準を活用し、作業のやりにくさや重筋作業を改善。快適な職場づくりを行った。
7	女性目線に立った重筋作業の削減 JFEスチール(株) 東日本製鉄所(京浜地区) 冷延部 冷延工場 RCL職場 今井 叶枝	11:40	当職場では、初の女性配属を契機に、女性ができない・やりにくい作業を改善することが、男性作業者にとっても作業の安全化につながると考え、主にトリマー刃交換作業のような重筋作業の改善に取り組んだ。また、職場詰め所の4Sも女性目線からの改善を行った。
8	IZRバンド材段取り作業の安全化 ～危険リスクゼロへの道～ JFEスチール(株) 東日本製鉄所(西宮工場) ステンレス部 西宮ステンレス工場 合田 竜馬	(12:00～13:00 昼休み) 13:00	バンド材段取り作業の安全性向上をテーマに活動を行った。さまざまな危険が潜んでいるが、手でバンド材を持つことが一番の危険要因と判明。自主保全で段取り専用台車を作成し、危険リスクをゼロにすることができた。腰痛の人や女性社員でも安全かつ簡単に作業できるようになった。
9	安全レベルの向上 ～連続無災害への挑戦～ 新日鐵住金(株) 和歌山製鉄所 エネルギー部 エネルギー工場 エネルギー整備課 北橋 美波	13:20	世代交代が進み、安全に対する知識が不十分なまま作業していることに不安を感じた私達が、若手主体で安全意識向上に取り組んだ。65歳超のベテランによる安全学習活動、過去の災害から学ぶ活動をはじめとする4つの活動を通じて、安全意識の向上を実感することができた。
		13:40	

# 中小事業場分科会

会場 ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー [横浜市中区山下町16]  
交通 みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分



10月18日(木) プログラム(13:50開始) .....

1	安全文化の構築 浅川造船(株) 東予工場 安全管理課 動労安全係 係長 坂田 晶理	13:50	弊社東予工場における直近5年間の安全成績は散々なものだった。昨年、OSHMSを導入し、安全文化を構築できない「真の原因」を考えた結果、人づくりが十分でないと感じ、教育体制を整えた。弊社における安全文化の構築とは、人を育てることであると考えている。
2	労働災害ゼロへ向けた弊社の取り組み (株)総合タック 管理部 次長 井上 進一	14:10	場当たり施策で止まらない労災、トップの「労災を何とかしろ」との至上命題の刃である。明るく兆しは「強力なリーダーシップ」だけ。暗中模索で辿り着いた先は「新潟ゼロ災害宣言運動2017」である。結果、かけがえのない従業員に労災防止の気概が芽生えた。
3	職場のメンタルヘルス対策 (株)神奈川警備保障 代表取締役 平林 尚子	14:30	会社経営に伴うストレスから心のケアの大切さを痛感し、メンタルセキュリティのプログラムを開発して社内コミュニケーション研修を導入したところ、隊員同士のトラブルは減り、離職率も低下、鬱の休職者0、仕事の能率も上がり、業績もアップした。
		14:50	

# 中小事業場分科会

4	ストレスチェック自社実施の利点と今後の課題 ～メンタルヘルス対策促進員の立場から～ 静岡産業保健総合支援センター メンタルヘルス対策促進員 杉山 淑子	14:50	ストレスチェック外部委託業者の選定に苦慮、あるいは経費削減上の理由でストレスチェックの自社実施を決めた中小規模事業所10社に対しての訪問支援活動の概要を報告する。制度上の問題点や課題も見えてきたなか、収穫は職場改善の糸口となる多面的な集団分析ができたことであった。
5	職場における安全衛生管理の進め方 小田原ガス(株) 総務部 執行役員総務部長 海野 和久	(15:10～15:20 休憩) 15:20	当社で実施している「事業場におけるリスクアセスメント」の導入に向けての準備から実践までの経緯と、工事現場において、当社と協力店が一体となって実施している安全パトロールや安全研修会を主とした「工事現場における安全衛生活動」の内容について発表する。
6	神奈川労務安全衛生協会における衛生管理担当者への支援活動 (公社)神奈川労務安全衛生協会 衛生管理推進委員会 委員長(椎野労働衛生コンサルタント事務所) 椎野 恭司	15:40	神奈川県内の衛生管理担当者のレベル向上を目的として、神奈川労務安全衛生協会では、衛生管理推進委員会を設置している。当委員会では、経験の浅い安全衛生担当者を中心に、専門知識や具体的な活動事例に関する情報提供と、担当者同士の交流を図るための活動を継続的に展開している。
7	わが社の安全衛生活動 日吉電装(株) 代表取締役社長 仁上 洋一郎	16:00	当事業場は、労働者数が50名未満のため安全委員会、衛生委員会の設置安全管理者、衛生管理者選任の義務はないが、50名以上の事業場に準じた活動をしている。最初から完璧は求めずに行えることから即実行することを心がけ、中小企業ならではの手作りの対策をしている。
		16:20	

## 中小事業場分科会 会場ロビーにて 「職場の安全と健康 無料相談会」開催!

# 海外安全衛生分科会

会場 ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー [横浜市中区山下町16]  
交通 みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分



10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

1	海外技能実習生の安全教育と安全意識向上への取り組み 日産自動車(株) 相模原部品センター サービス部品物流部 商品管理グループ 作業指導員 廣瀬 政明	9:30	2016年3月にフィリピンからの海外技能実習生入職後の安全教育および日ごろの安全活動を行っていくうえで、習慣の違いや言語の壁を乗り越えてKYT訓練、体感訓練を実施して、安全意識の向上を図ってきた。プロパーと海外実習生とが同じレベルで安全活動を行ってきた事例を紹介する。
2	海外工事における「分かりやすく、シンプルに」の安全管理について (株)ユアテック 海外事業部 企画・統轄グループ 課長 大竹 俊	9:50	途上国における建設業の安全管理は一筋縄ではない。これは、日本に比べ安全に対する文化の歴史が浅く、建設業界や社会全体が安全より生産性を優先するあまり、安全意識が低下するためである。弊社がこれまで経験してきた途上国での安全管理の苦労と成果について紹介する。
		10:10	

# 海外安全衛生分科会

**3** **北米安全スタッフと協業した「北米流異常処置者指名制度」の構築・展開**  
(株)デンソー  
 安全衛生環境部 グループ統括室 担当係長  
**中村 義哉**  
 (10:30～10:40 休憩) 10:40

グローバルで異常処置災害抑止を図ってきたが、北米で他地域に比べ約3倍の災害が発生していた。そこで北米特有の文化(転職、人材育成等)を考慮した、北米流の異常処置の安全確保(教育・指名制度)に現地スタッフと連携して取り組み、新制度を構築した。

**事例報告**  
**生活習慣病予防と医療費削減に向けたタイ日系企業向け食生活改善指導事例**  
Marimo5 Co., Ltd.  
 代表取締役  
**大和 茂**

肥満や糖尿病などの生活習慣病が増え続けているタイにおいて職場健康づくりプログラムを開発・提供する講師より、在タイ日系企業の従業員向け食生活改善指導事例や海外赴任者の食生活の問題等を中心に、タイにおいて浸透しつつある新しい職場健康づくりについて紹介する。

**特別報告**  
**中災防の国際協力事業及びAPOSHO年次会議の日本開催について**  
中央労働災害防止協会  
 技術支援部 国際センター

11:10

中災防で実施している海外の情報提供事業、日系企業支援事業(アジア安全衛生SAKURAプロジェクト)、JICAを通じた国際協力事業、2021年のAPOSHO(アジア太平洋労働安全衛生機構)年次会合の日本開催等について説明する。

**事例報告**  
**海外派遣労働者の心身の健康管理**  
産業医科大学 産業生態科学研究所  
 精神保健学研究室 助教  
**日野 亜弥子**  
 11:30

グローバル化の進展に伴い、海外派遣労働者は年々増加している。海外派遣労働者には、地域特有の健康問題が存在するため、現地の状況をよく理解した上での健康管理が望まれる。海外派遣労働者の心身の健康管理について、企業での取り組みを交えて紹介する。

12:00

# 第三次産業分科会

**会場** ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー [横浜市中区山下町16]  
**交通** みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分



**10月19日(金) プログラム(13:00開始) .....**

**1** **小集団活動「見える化活動」の取り組み**  
日通商事(株) ロジスティクス・サポート事業部  
 品質管理部 担当部長  
**岡 克彦**  
 13:00

ある年度に労働災害が14件と倍増し、緊急事態として事業部全体で対策に取り組むこととなった。小集団活動が最適だが、経営トップから与えられた期限は2年。KY・RAを教育する時間はない。そこで、5Sに取り組む小集団を各拠点に作り、翌年安全の取り組みをまとめた「見える化活動」を追加、定着させることにした。

**2** **ノーリフトポリシーによる労働環境の改善と現場への浸透について**  
社会福祉法人 伸こう福祉会  
 特別介護老人ホーム クロスハート栄・横浜 介護主任  
**館田 有芽野**  
 13:20

介護スタッフの高齢化が進み、現場では腰痛による移乗介助ができない高齢職員が増加傾向にある。個人の力量に頼らない、高齢職員でもできる介護が必要となり、2016年から日本ノーリフト協会の研修を開始した。法人全体で浸透を図るためトレーナーを育成し、現場に広めている。

**3** **職員を守りたい！ 介護老人保健施設における腰痛予防対策**  
介護老人保健施設 連根ひまわり苑  
 介護課 介護副主任  
**関口 亮太**  
 13:40

尿意はあるが立位を取ることができない方をトイレへ座らせるために、抱え上げる介助を続けていた。腰痛に悩むなか、厚労省の腰痛予防対策指針で人力での抱え上げを行わないと示されていることを知る。福祉用具の活用や作業姿勢の改善で腰痛軽減の成果を得られた。

14:00

# 第三次産業分科会

**4** **現場間におけるヒヤリハット情報の早期共有の取り組み**  
(株)ネクスコ・メンテナンス関東  
 技術管理部 技術管理課 課長  
**越山 安敏**  
 (14:20～14:30 休憩) 14:30

高速道路の維持修繕は、補修工事のほか清掃作業や雪水作業さらには交通事故や自然災害の復旧作業と多岐にわたり、作業環境もまちまちである。ヒヤリハット情報をタブレット端末により職長クラスが現場で入力し、情報共有、水平展開を図り全現場の安全管理を支援するシステム構築を行った。

**講演**  
**吉野家の歴史から学ぶ～人をダメにするのも人、人を成長させるのも人～**  
(株)吉野家ホールディングス 会長  
**安部 修仁**  
 15:30

創業原点の重み、経営危機に陥った苦難の時代、そして躍進。そのエネルギーの源は、人材育成に対する高い志と周囲の人々に対する深い感謝の念による。のれんを守り続けてきたキーマンが、従業員をやる気にさせる職場風土づくりなど、吉野家の歴史を語る。

15:30

# 労働衛生管理活動分科会

**会場** ワークピア横浜 2階 おしどり・くじゃく [横浜市中区山下町24-1]  
**交通** みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口 徒歩5分



**10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....**

**1** **病院と連携した包括的な筋骨格系障害予防への取り組み**  
三菱重工業(株) 民間機事業部 複合材主翼工作部  
 工務課 安全衛生チーム 主席チーム統括  
**内田 豊一**  
 9:30

病院で治療を行っている理学療法士と産業医による筋骨格系障害予防教育とストレッチ教育、職場巡視を実施しているほか、衛生管理者や職長に腰痛予防労働衛生教育インストラクターコースを受講させ、予防教育の浸透を図っている。また、リスクアセスメントにOWAS法の作業姿勢評価を取り入れ、高リスク作業を抽出した。

**2** **フォークリフト運転技能講習における熱中症対策 ～WBGT値を参考に～**  
(公社) 神奈川労働安全衛生協会  
 事業部長  
**竹内 寛**  
 9:50

当協会のフォークリフト運転技能講習の実技講習は屋外教育であり、天候に影響を受けやすい。中でも熱中症発症が懸念される6～9月を対象集中期間として、経口補水液、直射日照対策、塩分補給、空調服着用など諸施策と併せWBGT温度も考慮した事例について報告する。

**3** **職場マネジメント強化と健診精度向上を目指した健康管理システムの再構築**  
トヨタ自動車(株)  
 安全健康推進部 健康推進室 健康総括 G  
**松枝 貴康**  
 (10:30～10:40 休憩) 10:40

健康管理システムの更新に当たり、管理監督者の主体性に委ねていた部下の健康管理(特殊作業の調査、受診勧奨、就業制限の遵守など)や健診時の検査項目漏れ、判定処理の産業医間格差などの課題を、Webや自動化等の機能によって改善につなげたので付帯効果とともに紹介する。

**特別報告**  
**最近の化学物質による職業がん多発事案から見えてくる原因と対応策**  
(独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所  
 所長代理  
**甲田 茂樹**  
 11:10

校正印刷での工場胆管がん、化学工場での膀胱がんなど、今まで知られていなかった新たな化学物質ばく露に伴う職業がんが確認された。研究所が実施したそれらの事例に関する災害調査の概要を紹介するとともに、そこから見えてきた化学物質のリスクアセスメントに関する新たな課題について説明する。

**4** **事業所一体となり熱中症予防対策を職場文化として定着させた取り組み**  
(株)IHI 横浜事業所  
 横浜総務部 横浜健康支援センター 保健師  
**高橋 淳子**  
 11:30

製造業である弊社にとって、熱中症予防は重大な課題である。そこで「熱中症予防と言えば」という合言葉を浸透させ、常に意識づけできる環境を整えた。具体的にはeラーニングの実施、朝の体調確認等に取り組んだ結果、熱中症患者はここ数年ゼロとなっており、職場文化として定着しつつある。

11:30

# 労働衛生管理活動分科会

5 **アーク溶接作業場における粉じん濃度の低減**  
トヨタ自動車九州㈱  
安全健康推進部 安全衛生推進室  
坂門 憲二郎

11:30  
当社では溶接粉じんについて作業環境測定を行っているが、一部の作業場で第1管理区分の維持が困難な状況であった。今回、プッシュプル型換気装置の定期自主検査要領の見直し、換気性能の傾向管理の仕組みを構築したことで、第1管理区分を定着させることができたため報告する。

6 **見えないばく露リスクを見つけ出せ！～有害物質のばく露モニタリング～**  
JXTGエネルギー㈱ 川崎製油所  
環境安全グループ インダストリアルハイジニスト  
持田 伸幸

11:50  
個人サンプラーおよびPhotoionization Detector (PID) を用いた有害化学物質のばく露モニタリングの事例紹介。モニタリングにより発見されたベンゼン高ばく露作業を改善することに成功。また、モニタリングを行う箇所選定プロセスについて紹介する。

7 **V-up プログラムを活用した健康管理活動の進化**  
日産車体㈱  
人事部 健康管理センター メンタルヘルス相談室 保健師  
金田 勢津子

(12:10～13:00 昼休み) 13:00  
心身の不調は、従業員の活力や生産性、会社の収益に大きな影響を与える。よって当社では、経営層も巻き込んだ戦略的な活動をPDCAを廻しながら進化させてきた。データと課題分析に基づいた保健指導やストレス職場環境改善、社内出身のカウンセラー体制などを紹介する。

8 **面体形電動ファン付き呼吸用保護具を選択する際に考慮すべき事項**  
㈱重松製作所 埼玉事業所  
研究部 第二研究室長  
鶴岡 俊之

13:20  
面体形電動ファン付き呼吸用保護具は、面体内圧を陽圧にするための送風システムならびに面体内圧低下警報装置および電圧低下警報装置が備わっていることが、高い防護性能で使用できることにつながるため、より確実に安全に作業するには、これらのことを考慮することが重要である。

9 **事業所における喫煙対策**  
東海旅客鉄道㈱ 健康管理センター  
名古屋健康管理室 保健師  
河合 智美

13:40  
喫煙室集約の案が出たことを機に、受動喫煙軽減と喫煙率低下、低コスト化を目的とした4つの取り組みを実施した。厚生労働省の推奨事項を満たす1つの喫煙室に集約することで受動喫煙を減らしただけでなく、喫煙率低下やコスト低下にも寄与した。

10 **当事業所の喫煙対策活動報告**  
富士通㈱ 川崎工場  
健康推進本部 健康支援室  
高橋 絵里沙

(14:00～14:10 休憩) 14:10  
当事業所における喫煙対策は1998年のオフィス内完全分煙にスタートし、喫煙室の集約を経て現在は建屋内禁煙となっている。建屋内禁煙完了後数年、喫煙対策WG活動や喫煙率低下が停滞状態にあり、WGの定期開催や新しい取り組みを展開し活動の強化を行った。

11 **神奈川県内の労働衛生関連アンケート調査30年を振り返って ～産業医からの考察～**  
(公社) 神奈川県労働安全衛生協会  
保健対策委員会 委員長 (㈱プリチスト横浜工場 健康管理センター長)  
仲村 準

14:30  
神奈川県内の専属産業医による構成される委員会、産業医活動と産業保健活動体制、労働衛生関連トピックス、在職中死亡医の実態について平成元年から神奈川県内で継続実施してきたアンケート調査が30年を迎えるにあたり、これを振り返り総括を試みる。

(14:50～15:00 休憩) 15:00  
**働く人の健康確保の視点から見た“働き方改革”～産業医に求められる役割～**

パネリスト 三井化学㈱ 本社健康管理室 室長 統括産業医 土肥誠太郎  
ファームアンドブレイン(有) 取締役 産業医 浜口 伝博  
三菱日立パワーシステム㈱ 安全環境管理総括部 健康管理室 室長 産業医 北原 佳代  
横浜ゴム㈱ CSR 本部 安全衛生推進室 室長補佐 西 正幸  
同 中央労働災害防止協会 常務理事 阿部 研二

17:00

# 化学物質管理活動分科会

会場 ワークピア横浜 2階 おしどり・くじゃく [横浜市中央区山下町24-1]  
交通 みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口 徒歩5分



10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

9:30  
1 **効果的な情報管理の検討と作業環境測定への応用**  
東日本旅客鉄道㈱ JR 東日本健康推進センター  
衛生試験室 副主任 医療技師  
浅井 佑太

当試験室では有機溶剤等の作業環境測定を実施しているが、管理すべき報告書やSDSが多く、情報を十分に活用できていなかった。今回、データ管理ツールを作成したことで、産業医が必要とする情報を迅速に提供および共有すること、そして効果的な作業環境測定を行うことが可能となった。

9:50  
2 **センサー(PIDや粉じん計)と映像の組み合わせによるリスクアセスメントへの活用について**  
十文字学園女子大学 大学院  
人間生活学研究所 教授  
田中 茂

物質のリスクアセスメントを進めるために、個人ばく露濃度をセンサー(PIDや粉じん計)で測定し、ばく露限界値と比較するとともに、ウェアラブルカメラで撮影し、ばく露を見える化する。リスク低減策として環境改善策や労働衛生保護具の使用の事例を紹介し、本法の問題点等について報告する。

10:10  
3 **オフセット印刷工場における作業環境改善の取り組みと「VOC警報器」の活用**  
(一社) 日本印刷産業連合会  
労働安全衛生部会 ワーキンググループ 座長  
寺田 勝昭

オフセット印刷工場ではVOCの発生は少ないものの、インキローラー洗浄やブランケット洗浄時に、短時間、局所的にVOC高濃度の領域が発生する。これに対応するため、VOC濃度が上がると警報を発する「VOC警報器」を開発し、作業者のVOCばく露を削減した。

(10:30～10:40 休憩) 10:40  
**簡易測定器を用いた化学物質のリスクアセスメント～具体的な測定器の紹介も含めて～**  
化学物質のリスクアセスメントにおいて最も精度の高い手法は実測による方法である。その代表的な方法として個人サンプラーを用いた個人ばく露測定があるが、専門技術や高価な分析機器が必要となる。この実践講座では、専門技術が必要なく誰でも容易にリアルタイムに測定を行うことができる簡易測定器を用いた方法についてのポイントのほか、簡易測定器の製造・販売会社から簡易測定器の特徴と活用事例などの紹介を行う。

山田 憲一  
吉栄 康城  
田中 聡平  
寺内 靖裕

総論 中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター  
事例紹介 柴田科学㈱  
新コスモス電機㈱ インダストリー営業本部 営業開発部担当課長  
ハネウェルジャパン㈱ ハネウェルアナリティクスユニットセールスエンジニア  
理研計器㈱ 営業技術部マーケティング課セールスエキスパート

(12:00～13:00 昼休み) 13:00  
**化学物質対策の動向について**  
厚生労働省 労働基準局  
安全衛生部 化学物質対策課長  
奥村 伸人

第13次労働災害防止計画における化学物質対策の紹介をはじめ、化学物質による労働者の安全と健康対策の動向について講演する。

13:30  
4 **化学物質の作業員への意識づけと工事における安全対策 ～リスクアセスメント活用～**  
㈱九電工 本社  
総合研究開発室 空調管技術推進グループ 担当  
横尾 英一郎

化学物質リスクアセスメントの義務化に伴い全社展開を図るなか、化学物質ばく露が原因と思われる中毒疾病災害が発生した。今回の災害と同種工事を施工するにあたり、化学物質による有害性・危険性の作業員への意識づけの難しさや実施した安全対策について発表する。

13:50  
5 **Webを用いた化学物質管理システムの開発**  
㈱ニコン  
人事部 健康安全推進課 主幹  
元山 いづみ

社内の化学物質は数千種類あり、管理に時間と手間がかかっていた。市販の化学物質管理システム導入を検討したが、機能が不十分だったため、独自に開発した。研究部門だけでなく生産現場でも容易に運用でき、労働安全衛生法に則った様々な管理が徹底できるようになった。

(14:10～14:20 休憩) 14:20

パネリスト

化学物質管理

# 化学物質管理活動分科会

6	化学物質から作業を守る 現場ニーズに対応した排気装置の最適設計 トヨタ自動車(株) 広瀬工場 工務部 総括室 安全衛生G 主任 大窪 玲奈	14:20	有機溶剤を車両やガラスに塗布する工程は生産変動により作業位置の変更が多く、移動が容易な排気装置の需要が高まっていた。有機溶剤中毒予防規則第13条の3第1項の発散防止抑制措置制定を受け、局所排気装置等の代替として、高汎用かつ低コストの排気装置を製作した。
7	薬傷災害予防策としてのリスクアセスメントの活用 東京応化工業(株) 相模事業所 EHS部 EHS業務室 担当課長 豊島 薫	14:40	薬傷災害の多発をきっかけに、リスクアセスメントの手法を活用したリスクの評価と改善のPDCAサイクルを回すシステム構築した。その後、皮膚腐食性の高い薬品のリスク評価、着用保護具や薬傷災害発生時の応急処置、連絡先と一体化した評価表の作成と運用準備を進めている。
8	化学物質管理データシートの開発と活用 (公社)神奈川労務安全衛生協会 労働衛生技術委員会委員(環境・安全衛生技術研究所) 藤澤 巖	15:00	化学物質による労働災害の防止には、危険・有害性等の正しい情報を入手活用し自主的な管理が重要である。法規制(有機則・特化則)やSDSを用いたリスク評価をもとに、職場で有効活用できる「化学物質管理データシート」としてまとめた。この構成と活用方法について報告する。
		15:20	

# メンタルヘルス／健康づくり分科会

会場 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 5階 日輪 [横浜市内西区北幸1-3-23]

交通 「横浜駅」西口 徒歩1分



10月18日(木) プログラム(9:00開場) .....

事例報告	休業日数の削減効果があった「いきいきダイキン」の取り組み ダイキン工業(株) 滋賀製作所 看護師 村田 里世	9:30	2000年からストレスチェックの前身となるメンタルヘルスマネジメントを実施し、改善意識調査から「いきいき」と活気ある職場環境を目指して改善を行っている。メンタル疾患の休業日数を削減した職場改善とラインケア・セルフケア研修等の総合的な取り組みについて紹介する。
事例報告	トヨタグループのメンタルヘルス活動と(株)豊田自動織機のストレスチェック職場改善支援 (株)豊田自動織機 安全健康推進部 健康管理室 健康支援グループ ワーキングリーダー 深谷 さくら	10:00	トヨタグループ17社は、「社員全員が心身共に希望と自信を持って、明るく仕事に取り組み」姿を目指し、健康管理部会で相互研鑽している。今回は、グループ各社のメンタルヘルスの活動と、(株)豊田自動織機のストレスチェック職場改善支援による未然防止活動を紹介する。
1	初年度のストレスチェック集団分析データを活かして (一社)小田原医師会 ストレスチェック担当理事 小島 時昭	10:30	小田原医師会独自の取り組みで、実施機関として企業と契約しストレスチェックの体制づくりから労基署への報告まで支援した。その支援の中で地域企業の集団分析データから見えたことを考察し、制度の活かし方を考える。初年度の活動成果に基づき職場環境改善に向けた事例を紹介する。
	(10:50~11:00 休憩) 11:00		
2	ストレスチェック制度を活用した職場の「いきいき診断」と職場活性化への取り組み 住友理工(株) グローバル本社 人事総務本部 ダイバーシティ推進室兼ヘルスケア室 野津 明香	11:20	ストレスチェック開始から2年目を迎え、当社では新職業性ストレス簡易調査を導入した。従業員が生き生きと働ける職場づくりを目指し、「いきいき診断」と銘打って、数値・グラフ・イラストを織り交ぜた診断結果と結果を活用した今後の職場改善活動について紹介する。

# メンタルヘルス／健康づくり分科会

3	衛生巡視で行うメンタルヘルス対策～目指すは笑顔の健康職場～ TOMH(東京大学職場のメンタルヘルス専門家養成プログラム) イノベーションコース TEAM DKT 佐野 友洋	11:20	TOMHイノベーションコースの班の検討により、衛生管理者や産業医等が行う職場巡視にメンタルヘルスの視座を取り入れることが、メンタルヘルス対策実務者不足の解決や生産性向上に寄与すると考え、メンタルヘルスの観点からのチェックリストの作成とその試業について報告する。
4	外資系企業におけるストレスチェックの実施について 三菱ふそうトラック・バス(株) 人事本部 HRマネージメントサービス部 安全衛生 道岡 弥生	11:40	当社は製造現場とともに全国に分散する小規模な整備・販売拠点を有し、オフィスには様々な雇用形態の外国人社員が働く。ストレスチェック実施に当たっては、対象者の選定、紙やウェブなどの実施方法、使用言語など多くの課題を抱えた。その対応の工夫や今後の課題について報告する。
		12:00	

会場変更 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 4階 清流

特別報告	最新の労働衛生に関する動きについて 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長 神ノ田 昌博	13:00	働き方改革や平成30年度から開始した第13次労働災害防止計画(13次防)も含め、最近の職場におけるメンタルヘルス対策、治療と仕事の両立支援、腰痛予防対策等の労働衛生に係る動きについて紹介する。
5	食事改善から行う体調管理 ～健康な心と身体で事故防止～ 九州旅客鉄道(株) 鹿児島乗務センター 運転士 松竹 亮仁	13:30	乗務員の不規則な勤務からくる「食」に対する意識の低さの問題に着目し、取り組みを開始。当乗務センター付近の店舗で購入できる栄養価の高い弁当や飲料を厳選し、ファイルを作成して休憩室に設置し、乗務員に広めた。その結果、日々の「食」による健康づくりにつながっている。
6	社員のライフスタイルの紹介を通じた健康に対する意識向上への取り組み 東日本旅客鉄道(株) 東京支社 大田運輸区 主任運転士 城本 猛	13:50	職場全体の健康増進のために、身近な社員のライフスタイルを紹介。健康づくりをあまり難しく考えさせず、それでいながら一人ひとりが自身の健康に向けて一歩を踏み出すためのきっかけづくりを行った。職場単位ですぐに取り組みする活動を紹介する。
		14:10	
会場変更	横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 5階 日輪 .....開場 14:00		
特別報告	「FUN + WALK PROJECT」の推進について スポーツ庁 健康スポーツ課長 安達 栄	14:20	スポーツ庁は、ビジネスパーソンのスポーツ参画人口拡大を図るための官民プロジェクトである「FUN+WALK PROJECT」を平成30年3月から本格的にスタートさせている。このプロジェクトの動向について紹介する。
特別プログラム	ぴんしゃんウォーキング(※本プログラムは、実技を含みます) (一社)ぴんしゃんウォーキング協会 代表理事・ウォーキングドクター デューク 更家	14:30	
		15:30	



# メンタルヘルス／健康づくり分科会

会場変更 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 4階 清流

- 15:40
- 7 小規模な事業所の特性を活かした健康管理活動  
日産工機(株) 安全環境エネルギー室  
内田 陽子
- 16:00
- 8 下肢筋力不足に着目した転倒予防のためのエクササイズ開発とその効果に関する研究  
(一財)中小建設業特別教育協会 講師  
植森 美緒
- 16:20
- 9 事業主・労働組合・健保組合 三位一体健康づくり活動  
日産自動車(株) 日産テクニカルセンター  
日産自動車健康保険組合 NTC 地区 健康推進センター  
牧野 春乃
- 16:40
- 10 「よこはまウォーキングポイント」を活用した健康増進活動  
旭硝子(株) 商品開発研究所 管理チーム 環境安全保安ユニット  
小林 久美子
- 17:00

当社は日産自動車グループに属する製造業で、平成24年に全国THP協議会優秀賞を受賞しているが、日産グループの中では小規模の事業場であり、健康管理を担当する部所もマンパワーは十分ではない。そのようななか、産業看護師が主体となり未病改善活動に注力している。

転倒の危険因子のひとつとして下肢筋力不足が指摘されている。そこで私たちは、転倒に関わる下肢筋群を包括的に強化し、転倒を予防するためのエクササイズとして、片脚立位で行うスクワットに近い運動を考案し、その効果を検証するために、下肢の筋活動に関する研究を行った。

従業員の健康は事業主、労働組合にとっても重要なテーマであり、当事業所では「安全と健康は全ての業務の基盤である」を基本方針としている。事業主、労組、健保三者で連携して取り組んだ健康増進活動(ウォーキングラリー、健康フェスタ、禁煙支援)について、その成果を報告する。

事業所の健康増進企画として横浜市が実施する「よこはまウォーキングポイント」を活用し、健康増進、コミュニケーション活性化を実践した。経営トップがリードする健康づくりと職場活性化への取り組みを組織的に実践し、横浜市健康経営認証を取得するなど一定の効果をあげた。

## 10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....

- 9:30
- 11 BMI25未満を維持し、肥満ゼロを目指す。「職場の笑顔と健康のために」  
東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運輸営業部 田園調布駅 駅務係  
星 雄幸
- 9:50
- 12 「スロージョギング」を用いた効果的な運動支援の取り組み  
日産自動車(株) 座間事業所 健康推進センター  
一色 政代
- 10:10
- 13 BMI30以上を対象とした減量に関する保健指導の展開  
旭硝子(株) 千葉工場 健康管理センター  
須賀 明子
- (10:30～10:40 休憩) 10:40
- 14 生活習慣病の予防や健康づくりを促す「Get Healthy大作戦」の展開  
中部電力(株) 人事センター 労務グループ (健康管理室)  
雑子 侑里
- 11:00

不規則な勤務形態である駅の仕事は、夜中の飲食や運動時間の確保の難しさなどから、肥満率の高い職員が多い。そこで、まず個人で目標体重を掲げた。毎週の体重測定や駅での食事内容の見直し、運動行事の実施など「マイザップ運動」と称し、職場全体で取り組んだ。

メタボリック該当者削減のため、肥満者に対する保健指導を実施し改善効果を図っていた。しかし、新規に編入する者も多く、事業所全体のメタボリック該当者の削減には至らない。そこで、「スロージョギング」になるポピュレーションアプローチで、メタボリック該当者の削減を図った。

当事業場で平成28年定期健診結果でBMI30以上の従業員に対し、生活習慣改善の保健指導を実施した。事後措置として生活習慣病の1次予防の全体取り組みは初めての試みである。1回目の取り組みの成果とアンケートにて対象の全体像やニーズを把握し、今後の指導について検討した。

生活習慣病の予防に向けた健康づくり施策に、従業員にとって魅力的なインセンティブを取り入れたことで、個人に加え、職場全体での取り組みが活性化し、若年層や健康無関心層・運動不十分層を巻き込む効果が得られた。健康意識の向上や運動習慣の改善につながった取り組みを報告する。

# メンタルヘルス／健康づくり分科会

- 11:00
- 15 当事業場メンタルヘルス専門分科会と進める一次予防活動について  
東芝メモリ(株) 四日市工場 総務部 健康支援センター 参事・保健師  
高崎 正子
- 11:20
- 事例報告 コマツ「健康づくり5ヵ年計画」の取り組みと目指すもの  
コマツ 健康増進センタ 産業医  
平岡 晃
- (11:50～12:50 昼休み) 12:50
- 16 年代別体験型学習「からだマネジメントセミナー」  
マツダ(株) 安全健康防災推進部 健康推進センター  
左手 雄磨
- 13:10
- 17 積極的な健康増進への取り組み ～食事・運動指導「健康活動宣言書」を活用した支援～  
北陸電力(株) 福井健康管理センター 保健師  
白崎 慶子
- (13:30～13:40 休憩) 13:40
- パネルディスカッション 経営層と語る健康経営～働き方改革を背景に～  
パネリスト ロイヤルホールディングス(株) 執行役員 人事担当 兼 同 人事企画部長 兼 ロイヤルマネジメント(株) 取締役 人事部長  
味の素(株) 執行役員 人事部長  
中央労働災害防止協会 理事長  
同 会 NPO 法人健康経営研究会 理事長
- 15:10

大規模事業場でメンタルヘルス一次予防活動を進めるためには、トップダウンとボトムアップ両者の視点が重要となる。従業員参加型活動を目的とした専門分科会も当初はPDCAが回らなかったが、4つのワーキンググループを作り小集団活動としたことで、PDCAが回り始めた。

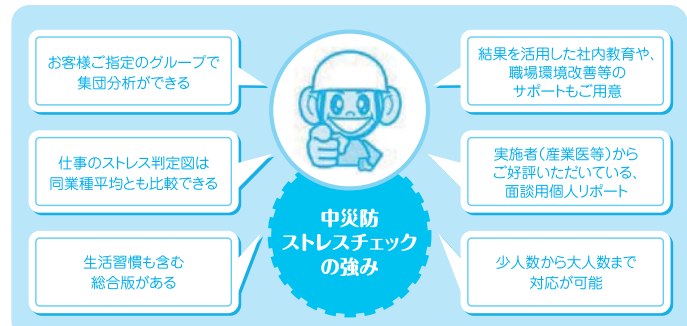
コマツグループでは、すべての事業場において質の高い健康管理を実施することに加え、社員が自ら判断して健康行動を起こせるヘルスリテラシーの向上を目的とした健康づくり5ヵ年計画を実施している。活動の概要と事業場規模や専門職の有無にかかわらず実施可能な活動を紹介する。

当社では、「自律型のいきいき職場」の実現に向けて様々な視点から活動を展開している。その活動の一つとして、健康行動のとれる人づくりを目的に年代別のアプローチを行っている。今回、31才を対象に外部の運動施設と連携し体験型セミナーを実施した内容について報告する。

当社は従業員の健康診断を自社で実施している有利性を活かし、生活習慣改善のための集合教育を同時に実施している。自らの習慣を振り返り、意識の向上・行動変容を目指し、さらに「健康活動宣言書」の活用によってその継続化も図っている。この取り組みの紹介・成果・課題を報告する。

## ストレスチェックは安全衛生のプロ、中災防に!!

ヘルスアドバイスサービス(ストレスチェックサービス)を平成14年から行っています。確かな実績で働く人を支えます。



詳しくは [中災防ヘルスアドバイス](#) 検索 [ストレスチェック事業課](#) 03-3452-6403